

三 元禄十五年一月、十二月

(表紙)  
元禄十五年壬午年  
万覚牒

正月朔日、同十二月晦日迄

組下村々高付并巳御年貢米

土(屋次郎左衛門)  
□□□□□□□□□□

一 高百三拾九石貳斗六升八合

前谷村

此取拾五石八斗六升五合

壺ツ壺分四厘

一 高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

此取百五石八斗五升四合

壺ツ七分

一 高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

此取百五石七斗六升四合

壺ツ貳分壺厘

一 高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

此取百拾五石六斗九升五合

壺ツ八分三厘

内

三百四拾四石三斗六升九合

弥次兵衛

此取六拾貳石九斗七升八合

拾四人

百六拾七石九斗九升四合

三平

此取三拾石七斗四升三合

拾貳人

百貳拾石七升七合

九右衛門

此取貳拾壺石九斗七升四合

七人

一 高五拾四石五斗五升

西方寺村

此取三五斗九升七合

六分六厘

一 高百七拾貳石四斗壺升

清王村

此取(四拾壺)(五斗)(マ)

壺ツ四分壺厘

(貳百九拾四)

赤尾村

(十数行欠損)

一 高七百九石七斗(四)

五(八)

此取百拾貳石壺斗五合

舟津村

一 高七百六拾九石九斗五升

十楽村

此取貳拾壺石五斗三升貳合

壺ツ壺分六厘

一 高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

此取貳拾三石八斗貳升九合

九分七厘

一 高七百拾石貳升

番田村

此取六石七斗八升四合

八分四厘

一 高七百壺石五斗

重義村

此取拾壺石貳斗六升九合

六分壺厘

高合八千拾八石六斗四合

三十五人

此取九百石七斗貳升壺合

平均高壺ツ壺分貳厘三毛余

高持百姓数四百八十三人

一米壺石二付銀五拾九匁七分四厘

已御直段

一 塩壹石二付銀式拾目四分四厘 右同断

元禄十五壬午年

正月一日

同二日

同三日

同四日

同五日

同六日

同七日

覚

一 廻米之義ニ付御用有之間来ル十三日可被罷越候

一 当午廻米去年之廻米ニ少多被仰付候、右之内少々不熟米も相廻筈

二 候、依之不熟米之手本米遣候間、如此之米何程有之哉水損村々

被致吟味、一村毎ニ不熟米員数書付并此手形米十三日ニ

一、以上

(十数行欠損)

「 「春御廻 「 「

「 「

一米五拾俵

一米五拾五表

一米六拾表

笹岡村

宮谷村

青野木村

一米五表

一米六拾表

一米三拾五表

一米七拾五表

一米五表

一米四拾三表

一米四拾八表

一米拾四表

一米貳拾三表

右者水損・旱損米如此二候

横垣村

井江葭村

国影村

舟津村

西谷村

十楽村

田中々村

番田村

重義村

同十一日

同十二日

同十三日

一 鯖江へ御用ニ而参候而、乍序御役人様方へ年始御礼等申上候

同十四日

一 於御陣屋ニ当午春御廻米江戸納庄屋・三国立合・上乘之義ニ付御

吟味被遊候

覚

一米何百何拾俵

内何ほと

何村

不熟米

一米何百拾俵<sup>(何脱)</sup>

何村

正月十五日

内何ほと

不熟米

西袋村市太夫

一米何拾何俵

何村

三国立合

有定村吉右衛門  
舟寄村五兵衛

内何ほと

不熟米

十楽村与三右衛門

合何千八百何拾俵<sup>(マ、)</sup>

内何程

不熟米

江戸納庄屋 国影村次右衛門  
壹番舟津村清右衛門  
貳番千福村次兵衛

右者去巳御年貢米之内当午春江戸御廻米割符被仰付候、米拵繩俵入念仕立可申旨奉畏候、右之内悪米之義去夏中旱損、其上去八月

十八日洪水ニ而田畑共ニ数日水湛、作毛水底ニ有之、多分ハ死米

秕ニ罷成候、此不熟米当春迄貯置候義難義仕候故、廻米可仕米少

分ニ御坐候間、右不熟米金納ニ被仰付可被下旨奉願候ニ付、其段

被仰立被下候得共、江戸御蔵詰米不足候間不熟米之内をも可相廻

旨被仰付候間、可得其意旨被仰渡難有奉存候、水損・旱損御吟味

之上不熟米右書面之通御「」 仰付奉□候、其為村々「」

(十数行欠損)

何郡何村庄屋

たれ印

右番付之通当年上乘ニ参候而、相残者ハ来未ノ年<sup>(圖)</sup>取なし  
ニ右番付を以壹番ニ立申答ニ候  
右之通於御陣屋ニ何れも御立合ニ而相極候

長百姓

たれ印

一去巳年諸役割割帳之案紙写取申候、案紙之通仕立候而二月十五日切

何村庄屋

たれ印

ニ可指上由

長百姓

たれ印

一寅御年貢米之内卯春大津御廻米入用算用帳壹冊、写取申度由御断

鯖江御役所

申預り申候、重而御陣屋へ返上可申答

右之通村々判形取指上可申由被仰渡候

一辰御年貢米之内巳春江戸御廻米諸入用算用下帳壹冊右同断

一金銀銭売買直段之証文壹通写取申候、村々判形を取重而御陣屋可

指上筈二候

一金貳兩貳分銀四匁重義村六兵衛増給金江戸二而御渡被成候由、請  
取手形自分判形仕候

一重義村忠右衛門・井江葎村義右衛門・国影村藤兵衛・城村二郎右  
衛門、巳秋も庄屋替り二而相勤申候二付村中判形為致、右四通園

右衛門様へ指上ル

覚

御廻米六百七石四斗六升四合、壹石貳貳分五厘五厘貳毛  
一金貳拾五兩三分銀五匁貳分五厘 浅草納不足金納  
右同断壹石二付壹匁三分三厘九毛  
一金拾三兩貳分銀三匁三分九厘 御廻米入用

三拾九兩壹分銀八匁六分四厘

「 壹分銀七匁三分九厘 巳春請取

「 貳分五厘 不足

「 〇義村 (重)

(十数行欠損)

「 〇西方 (寺村)

金「 一 銀拾壹匁貳分六厘 清王村

金壹分銀拾匁貳分三厘 赤尾村

銀拾匁貳分三厘 横垣村

金壹兩壹分銀拾四匁七分 井江葎村

金三分銀壹匁四厘 国影村

金壹分銀六匁四分八厘 牛山村

金壹兩壹分銀拾九分五厘 舟津村

銀六匁壹分五厘

銀拾壹匁九分四厘

銀九匁貳分貳厘

右之不足委細之義辰御年貢仮通留消帳二書記有之候  
右之不足早々取立被指上候様二と村々へ申付候

巳御年貢米之内午春江戸御廻米并入用銀先割之覚

本米拾壹石四斗八升三合  
一米三拾俵

内六表

不熟米

金三分銀九分三厘

本米壹石二付銀四匁宛

本米七拾六石五斗五升五合  
一米貳百俵

内四拾貳表

右同断

金五兩銀六匁貳分貳厘

本米七拾六石五斗五升五合  
一米貳百俵

宮谷村

内四拾貳表

右同断

金五兩銀六匁貳分貳厘

本米八拾三石四斗四升五合  
一米貳百拾八俵

青野木村

内四拾六表

右同断

金五兩貳分銀三匁七分八厘

此訳

本米四拾五石四斗二升六合  
米百拾八表貳斗八升壹合

弥次兵衛

内貳拾五表壹升八合

右同断

金三兩銀壹匁七分四厘

本米貳拾貳石壹斗六升七合  
米五拾七表三斗六升四合 五十郎

内拾貳表八升八合 右同断

金壹兩壹分銀拾三匁六分七厘

本米拾五石八斗四升貳合

米四拾壹表壹斗五升五合 九右衛門

内八表貳斗九升四合 右同断

金壹兩銀三匁三分七厘

本米貳石六斗□升九合

一米七俵 西方寺村

内「」 右同断

(十数行欠損)

一米貳「」 升 井江(葭村) □ □

内五拾六表 右同断

金六兩三分銀六匁六分八厘

本米五拾貳石四斗四升

一米百三拾七俵 国影村

内貳拾九表 右同断

金三兩壹分銀拾四匁七分六厘

本米貳拾六石貳升九合

一米六拾八俵 牛山村

内拾四表 右同断

金壹兩貳分銀拾四匁分貳厘

本米七石貳斗七升三合

一米拾九俵 西谷村

内四表 右同断

金壹分銀拾四匁九厘

本米八拾石七斗六升六合

一米貳百拾壹俵 船津村

内四拾四表 右同断

金五兩壹分銀八匁六厘

本米拾五石六斗九升四合

一米四拾壹俵 十楽村

内九表 右同断

金壹兩銀貳匁七分八厘

本米拾七石貳斗貳升五合

一米四拾五俵 田中々村

内九表 右同断

金壹兩銀八匁九分

本米四石九斗七升六合

一米拾三俵 番田村

内三表 右同断

金壹分銀四匁九分

本米八石三升八合

一米貳拾壹俵 重義村

内五表 右同断

金貳分銀貳匁分五厘

右之寄

本米六百三拾九石九斗五升貳合

米千六百七拾壹俵三斗五升

内三百五拾壹表 不熟米

金四拾貳兩貳分銀九匁八分 本米壹石二銀四匁宛

右当午春江戸御廻米御割符并入用先割銀共二御書付請取申候

一右諸色御用相济候二付鯖江を罷出福居一宿仕候

(十数行欠損)

□□村々(庄)屋長百姓呼寄当□春御廻米割不熟米之証文、銀子錢貯

置申間敷証文、酒□申間敷証文、巳春御廻米入用銀勘定帳之、卯ノ春大津廻米入用銀勘定帳、巳春御廻米入用不足之判形取申御廻米之義、其外御法度之品々堅申渡候、次二

国影村次右衛門 江戸納庄屋

十楽村与三衛門 三国立合

舟津村清右衛門上乘、是ハ去巳春も願候二付当年壹番船二罷

出申様ニと被仰付候

右之通何れもへ申付候

同廿二日

同廿三日

一 国影村新右衛門火事之義御注進申上候処、自火・類火も無之人馬生類無相違候故者、小屋掛ニ而も早々為致候様ニと被仰越候二付、其段国影村へ書付遣し申候

同廿四日

同廿五日

一金壹分

一金壹分

一金拾兩

一金壹分

金壹分

勘左衛門

宗右衛門

宗兵衛へ預り手形遣し申候

二郎兵衛

油代銀

金壹分

金半切

金拾兩

金半切

諸弘之内

葉代金之渡

豊左衛門

寺へ年始

一 井江葭村義右衛門・国影村藤兵衛・牛山村次兵衛・弥兵衛三国迄被参候而申聞候ハ、牛山村二郎右衛門・八兵衛義我々罷出噯申候処、庄屋組ハ右之通二郎右衛門組二付可申由二而、八兵衛請取置候御年貢銀之手形二郎右衛門方へ相渡させ候得共、兩人ハ中ハ直り不申候由申聞候

一 右之庄屋中三国へ被参候二付、不熟米之事方々聞合之相談申聞候処境屋甚右衛門申候ハ、此度之不熟米之義終ニ御廻米ニ仕立申覚無之候二付、直段之積り難相知候、然共式拾六匁程ニ而出来可申様ニ存候、其内直段も立候ハ、並ニ可仕由申段右何も申聞候へハ、其通ニ而誂申様ニと被申候二付、甚右衛門方へ申聞候而御米拵為致申候、代銀ハ三月十日迄ニ取立相済シ可申由甚右衛門へ申聞候一 卯春大津御廻米入用銀算用下帳壹冊、并「  
」下帳壹冊、藤助おかり候而写取「  
」返を仕候「  
」形帳壹冊

(十数行欠損)

「  
」村市郎兵衛「  
」被仰付候由断「  
」来り候

一 十楽村与三右衛門鯖江お昨□罷歸り候由、右遣シ申諸書物園右衛門様へ指上御請取被成候由被仰越候、□別帳源五右衛門様へ指上候処御返事被遣有之候

同廿八日

一 去暮滝谷町新屋豊左衛門ニ貸金貳拾八両之内、貳拾兩ニ豎町川方  
 豊左衛門本屋下隣家屋敷売券状壹通、横町かちや伊兵衛ニ貸屋壹  
 軒家屋敷代金八両之売券状壹通、別紙証文相添請取申候ニ付、右  
 貳拾八両之金子当午六月中ニ相濟候ハ、去暮之本証文売券状・  
 添証文共ニ相返シ可申由、返り証文豊左衛門方へ相渡候、外ニ金  
 拾兩・利金壹兩ノ拾壹兩、此質物地蔵町米納津屋ニ貸屋家壹軒同  
 屋敷共ニ書入、質物証文請取代金豊左衛門ニ相渡申候、為覚如斯  
 二候

一金貳分出村甚左衛門ニ貸米代銀ニ遣し申由

同廿九日

同晦日

二月一日

同二日

同三日

同四日

同五日

同六日

同七日

同八日

同九日

一 笹岡村市郎兵衛・市右衛門、同村弥五兵衛・作兵衛出入之義、双  
 方共ニ庄屋長百姓召連、今日鯖江へ参候様ニと最前被仰付候処、  
 長百姓共相煩候ニ付為御断昨日弥五兵衛鯖江へ参候処、然者十九  
 日ニ双方庄屋長百姓共ニ遣し申様ニと園右衛門様御手紙被遣候、  
 其前ニ下ニ而相濟申様ニ心添候様ニと被仰越候

同十日

一 笹岡村宗左衛門・市右衛門・作兵衛呼候而、何とそ下ニ而相濟候  
 様ニと段々為申聞候

同十一日

一 御廻米「」村々不残相渡し申□<sup>(候)</sup>

一 田中々村不熟米「」

一 巳春御廻米明「」

(十数行欠損)

「」 匁壹 「」

銀百三拾四匁九分□厘 方々借方

銀百七拾八匁四分貳厘 二郎右衛門御借

銀百四匁 長左衛門御借

銀百三拾貳匁八分 北金津 半左衛門御借

銀六拾九匁八分 義右衛門御借

右之通太兵衛借方大分有之持高はなし申二付、庄屋長百姓加判無之脇借之分ハ、借方銀高之通高取申者共之方ハ相弁、相済可申相談ニ而相済候、二郎右衛門・長左衛門・半左衛門・義右衛門此四人として高割申二付、右割様之次第高御年貢・弁銀共ニ四人かし方銀高二応シ割分可申と申候得ハ、半左衛門義ハ高を四ツわりニ仕、かし銀過不足ハ銀子ニ而取遣り可仕由申出候二付、左様ニ仕候法ハ無之候間右銀高二応シ割分可申候、其義承引無之候ハ、書付を以申上候様ニと申渡し候

同十五日

一金八両 今村政二郎を預り手形相渡ス

此内方々払手形を以重而可相返筈

一金壹両 平七郎渡、仁太夫二かし

同十六日

一金貳両 不熟米代之内太兵衛二渡

一金貳分 麦屋吉左衛門ニ当座かし

一金貳両三分 政二郎家代銀平七二渡

一金三分銀四匁 もめん代指引有

同十七日

一筆致啓上候、先以此間者不得御意御物遠ニ罷過候、弥御無事ニ被

成御座候由珍重之御事ニ候、左様ニ御座候へハ貴様御与下加戸村九郎兵衛、年七十余歳ニ而手前不罷成、夫婦共ニ渴命之躰ニ罷有候処、持高之義ニ付出入有之故御訴訟申上、御高之影を以助命仕度由、九郎兵衛婿舟津村甚右衛門難見捨候ニ付訴状加判仕加戸村庄屋中へ願候得共、取次不申候ニ付貴様迄直ニ持参仕候処、尤庄屋中取次不申候故御取上ケ無之候段御尤至極ニ奉存候、然とも訴状指上申事不罷成候得ハ、舅夫婦見殺シ申義迷惑千万ニ御座候得共、甚右衛門義も去々年類火ニ相<sup>(遭)</sup>、其身不力者之義ニ候へハ、見次可申様も無御座候段、甚右衛門我等方へ参色々嘆申候、九郎兵衛高出入ハ何様ニ被仰付候共我等不及沙汰義ニ御座候、然共年寄候者共及餓死ニ候との訴ニ候へハ、加戸村庄屋中「」申義難心得存候、第一生類を憐<sup>(親カ)</sup>「」の御<sup>(親カ)</sup>置<sup>(親カ)</sup>「」

(数行欠損)

道之義有之候ハ、半左衛門吟味之上重而此方へ被申聞候様ニと弥次兵衛へ申入候

同十九日

覚

一前方申渡候通当春御廻米之内不熟米、弥来ル廿五日ハ津出し申付候、依之右不熟米見可申候間、仕立候米上中下式三合ツ、銘々紙袋ニ入、慥成者ニ為持一兩日中ニ可被差越候、且又于今中札不被指越候、油断之至ニ候、早々越可被申候

一 村々田畑地所割替之義ニ付書付案文別紙ニ遣候間、村々へ申渡与切庄屋長百姓連判取之可指出候、以上

二月十八日

尾花園右衛門

坂井郡大庄屋三人

右御廻状・別紙書付共ニ後山お参候ニ付請取有之候

同廿日

一 笹岡村市郎兵衛・市右衛門高出入之義、昨十九日ニ御陣屋ニ而御役人中御聞被成、右代銀・代米来ル三月中ニ相濟申様ニと市右衛門ニ被仰付候由

一 笹岡村弥五兵衛・作兵衛山出入之義、是昨日御陣屋ニ而御聞被遊、是ハ秋中御代官様へ申上御了簡を請可申由被仰付候由ニ而、市郎兵衛・弥五兵衛共ニ鯖江お今日罷帰候由断ニ参候

一 国影村中として米拾五表、南金津米屋太郎左衛門方ニ而高八拾石質物ニ書入、来ル十月迄四割之利足ニ而米をかり申ニ付、加判仕くれ候様ニと申来り候得共、是ハ余り成高利、殊右之かり米十月中ニ罷成候ハ、右質高於相渡申ニハ水帳を以田畑割渡し可申由ニ候へハ、水帳之上之田畑不足ニ候へハ、是以加判不罷成候と申聞候

同廿一日

一 不熟米之義ニ付源八三国へ遣し候、日帰り

同廿二日

一 御廻米之義段々村々へ申渡、同中札請取并田畑割替申義ニ付御断申上候様ニとの証文ニ判形取申候

同廿三日

一中札千六百七拾三枚

一 田畑地割仕候ハ、御断申上候様ニとの証文、園右衛門様書状指添候

一 舟津村巳年水損反別帳源五右衛門様へ遣ス

右之通源八為持鯖江へ遣し申し候

一 重義村太郎兵衛・孫四郎出入之事、庄屋長百姓として扱相濟可申候、若相濟不申候ハ、訴状を以申上候ハ、取次可申由申渡し候

一金四拾貳兩貳分半 昨廿二日ニ請取候

一金壹兩三分 二月廿四日田中々村お請取

同廿四日

同廿五日

一金三拾兩 麦屋太兵衛 松岡屋甚左衛門 兩人へ渡ス

右取立金之内

「」お米雜石沖口留申候由被仰越候

同廿六日

一金拾兩 麦屋太兵衛 松岡屋甚左衛門 兩人へ渡、通二付

不熟米代銀之内

一昨廿五日斎藤久野右衛門様・小林郷助様、御廻米津出し御用二三  
国へ御越被成候

一御米中札御判相濟候而源八鯖江ハ罷帰候、田畑割替之証文指上申候

一舟津村巳年田畑水損帳、源五右衛門様御請取之由被仰越候

一新家吉太夫欠落之事二候へハ、為立寄申間敷由証文を取指上候様

二と織右衛門様ハ被仰越候

二月廿七日

同廿八日

一新家又左衛門ニ吉太夫義申渡し候

一十楽村与三右衛門、三国立合ニ罷出候様ニと申付候

同廿九日

一金壹兩 出村麦屋 吉左衛門ニ当座かし

一金貳兩 麦屋太兵衛 松岡屋甚左衛門 兩人へ渡ス、通二付

三月朔日

一金壹分

諸弘之内

同二日

預り申金子之事

合金拾兩也 此利壹兩壹分

元利ノ拾壹兩壹分

右之金子ハ慥ニ預り申候、何時ニ而も御用次第ニ無相違返進可申候、  
為其預り手形指上申処如件

元禄十五年午三月二日

次郎左衛門 印

大柳太兵衛殿

右之金十月十日ニ相濟手形消申候

同三日

同四日

一右之預り手形并書状相添、西谷村人足為持大柳太兵衛殿へ遣し候

へハ、金拾兩被遣候而請取申候

一右之金子甚左衛門・太兵衛ニ相渡候而通ニ被付請取申候

同五日

一金壹兩 麦屋吉左衛門方ハ最前当座貸□兩貳分之内請取、残而

貳分かし有

一金三分 月窓寺様へ上ル

一金壹分 同僧衆へ布施其外小遣共ニ

同六日

同七日

一金式分 忠右衛門・五右衛門

一同半切 □□代

一同壹分 朱代・漆代月窓寺様言伝、上方ニ而御買被下候様ニ

と申候

舟寄組名寄帳、後山・前谷両組名寄帳・諸遣帳いまた出不被申候、余組ハ不残相濟候間無油断被申付、近日可被指越候、以上

三月六日

安藤源五右衛門 印

坂井郡大庄屋中

尚々其元ニ而斎藤久野右衛門殿へ被相納候ハ、此方へ断ニ及不申候、以上

右之御書付三月十二日ニ源五右衛門様へ返し申候

三月八日

同九日

同十日

一番田村久左衛門高・家書入、同村又左衛門・弥右衛門・四郎兵衛

・久七・門三郎・彦兵衛・徳左衛門・市□郎、此八人方名金子拾

四両壹分借金有之二付、高・家共ニ割取可申由右貸主共申二付、

久左衛門色々右八人へ歎候へハ、何れも納得ニ而かし金之分久左

衛門捨とらせ可申由被申二付、久左衛門義ハ右八人之あわれミニ

而百姓ニ立罷有候段、難有由証文右之<sup>(者)</sup>□共へ相渡、庄屋又左衛門

預り置申候、扱貸主八人方名右之貸証文久左衛門ニとらせ納得捨

申由証文取置申候

一今日不熟米代銀請取申候

同十一日

一上米中札千式百七拾四枚

是ハ前谷・笹岡・宮谷・青野木・清王・赤尾・横垣・井江葎・

国影・牛山・舟津・西谷・田中々村・重義十四ヶ村之中札、出

村甚左衛門ニ言伝十楽村与三右衛門方へ遣し申候

外

一上米中札三拾式枚、十楽村中札与三右衛門方ニ有

一同拾五枚、西方寺村・番田村中札持参不申候二付跡名可遣由与

三右衛門方へ申遣し候、番田村中札も遣し申候

一不熟米中札三百五拾壹枚、三国麦屋太兵衛方ニ有之由与三右衛

門方へ申遣し候

右中札之段々手紙指添与三右衛門方へ遣申候

一不熟米直段之義甚左衛門を呼寄吟味仕候処、最前不熟下米壹表廿

四匁七八分ニ買上候米を、頃日ハ廿七匁三分五分ニ買上候二付、

方々廿六匁五分ニ請取米も損料参候間、何とぞ了簡を仕くれ候様

ニと申事二候

同十二日

一横垣村五郎兵衛、持高五年以前丑年を去巳年迄五年季ニ質物ニ入候処、申暮請出シ申事不罷成候ニ付、貸主六太夫方へ年数ヲ延くれ候様ニと申候得共承引不仕候、何とそ年数を延候様ニと御異見被成被下候様ニと申来り候ニ付、年数明候而流申質物之義ニ候へハ此方を何共難申付候、然共庄屋次右衛門ニ様子可承候と申聞候

同十三日

一西方寺村中札五枚、境屋甚右衛門川舟船頭ニ言伝、十楽村与三右衛門方迄遣し申候

一笹岡村作兵衛申来候ハ、弥五兵衛と出入之山江弟九郎兵衛立入伐取申候ニ付おさへ、庄屋宗左衛門へ相断伐取候薪を預ケ置申由申来り候ニ付、其方弥五兵衛と出入有之返答書被仰付候処、返答認鯖江へ持参仕候節も此方へハ何之断もなく、又鯖江を罷歸り候節もとかくの断も無之候へハ、其方出入之義者我等方へ為構可申所致ニも無之、又出入之事我等了簡可仕様も無之候、鯖江へ参候而其段可申上候哉、其方了簡次第ニ可仕候と申聞候

同十四日

一廻米船大坂出船之由申来候、追付三国湊へ入津可申処津出延引船積指支可申候、依之村々へ之廻状相認遣し候間、与下村順ニ書付

早々可被相廻候、以上

三月十二日

坂井郡大庄屋中

尾花園右衛門印

一御城米船大坂出船之由申来候、追付三国湊へ入津之筈ニ候間村々廻米早々津出し可致候、延引候ハ、舟積手支候間少も油断有間敷候、以上

三月十二日

前谷組村之庄屋中

尾花園右衛門印

覚

古金銀吹直シ有之処今以所々ニ有之由ニ候間、若古金銀所持仕候者候ハ、新金銀ニ引替可申旨被仰渡奉畏候、村中吟味仕古金銀所持仕候者御座候ハ、為引替可申候、以上

午三月

坂井郡前谷組村々

庄屋印

右之通村々庄屋印形を取重而可被指出候

尾花園右衛門印

右之通御廻状・御書付共ニ後山村を参候を請取申

右之御書付村々へ相廻シ庄屋中印形を取申候、留無之候、右之

書付五月四日ニ鯖江園右衛門様へ指上ル

三月十五日

同十六日

同十七日

一 御廻米之義村々へ申遣し候

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一 源八御廻米之義ニ付昨日遣し、それ〆村々廻シ候て今日罷歸

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一 廻船式艘当月廿七日入津いたし、上乘之老番舟津村清右衛門ニ

而候間、前々之通親類書并請人等之義相極候様ニ可被仰渡候、

二三日中ニ船積申付候筈ニ候、尤納庄屋も今年ハ船積いたし次

第江戸へ遣し申筈ニ候、則国影次右衛門參候ニ付右之趣申渡候、

以上

三月廿九日

小林郷介印

前谷村

二郎左衛門殿

齋藤久野右衛門印

一 三月廿五日之日付ニ而能州中野元右衛門様〆御状被遣候、則伏木

五太夫殿へ之御返状も「」を三国〆被遣候、則西谷村五郎右

衛門ニ言「」伏木五太夫殿へ遣し申候

三月晦日

一 御廻米御用ニ付三国へ參候

一本米銀五匁か、筆式対銀式匁、墨老挺四匁三分、吉野漆銀三匁か、

京都〆月窓寺様被遣候、外ニ墨老挺御音問ニ被下候

四月朔日

同二日

一 国影村次右衛門御廻米納庄屋ニ參候ニ付、親類書請証文判形於三

国ニ御役人様方へ指上申候

一 舟津村清右衛門御廻米船上乗ニ參候ニ付右同断

一金式分 麦屋吉左衛門ニ当座かし

一金三両式分 政次郎〆預り金遣、吉左衛門ニ而返し申候、則

指引書付遣し申候

一金五兩 不熟米代銀之内甚左衛門へ渡

一 京都片岡次郎左衛門方へ書状遣候義者、京中立売通新町西へ入町

北側ニ而さつまや道保

一金八兩 政次を二月十四日二預り

内

式兩三分 家代金平七郎二渡

式分 味噌代銀二渡

三分銀拾三匁八分 疊拾四疊代

三兩式分 四月二日二遣、吉左衛門二而渡

残 壹分銀壹匁式分 重而指引可仕筈

右之通指引書付遣し、最前相渡置候自分預り手形取返ス

同三日

一金壹兩 仙玉奉加金相渡申候

同四日

同五日

一金五兩 月窓寺様へ貸金六太夫二渡、麦屋吉左衛門も同座二而

相渡シ京へ遣し候

内壹兩式分ハ月窓寺様御預り手形有

三兩式分ハ御預り手形なし

但此金子ハ政二郎方へ遣し可申之処、相違仕遣し不申候

二付我等方へ取かへ遣し申候

一金壹分本米御買被下候様ニと申六太夫二相渡し申候

同六日

金七兩半切

宮谷村

金貳兩壹分銀九匁式分

牛山村

金四兩三分銀四匁三分

国影村

金四兩三分銀八匁四分三厘

清王村

金八兩

井江葭村

金三分半切

横垣村

金貳兩式分

赤尾村

金六兩式分

青野木村

金壹分

西方寺村

金壹兩

青野木村

金四兩壹分半切

舟津村

金壹兩壹分

十楽村

金壹分銀九匁三分

番田村

金壹兩式分銀壹匁六分式厘 田中々村

合金四拾五兩三分銀拾匁式分五厘

右者当御廻米之内不熟米代金、同入用先割銀、去已追割之内請取

預り手形村々へ相渡し、重而指引可申筈二候

一粟毛四才馬壹疋 髮切 清右衛門

一同壹疋 同断 同人

右ハ二ツ屋口通り手形奥判仕指上

一鹿毛四才馬壹疋 髮切 青野木村 九郎兵衛

右同断

一金拾八両 不熟米代金之内、甚左衛門二渡ス

一金五両 上乘給金、舟津村清右衛門二渡、手形有

四月七日

一 田中々村水围之義二付中番・上番・下番・河間・玉木と出入之場

御見分可被遊由二而、当十一日二藤介様并吉田小野右衛門殿御同

心二而御出被成候、我等右之所へ罷出候様ニと御書付被遣候を三

国ニ而請取申候

同八日

一金貳両 出村山城屋二貸、証文甚左衛門、手形なし

同九日

一 舟津村清右衛門上乘船御米今日積仕廻申由

同十日

一金津村願泉寺殿へ罷出、何れも講中寄合候而此以後毎月廿五日ニ

寄合御講取結可申筈、講錢四拾五文持參可申定二候

同十一日

同十二日

一 青山藤助様・吉田小野右衛門様・布目村彦兵衛・野中村五左衛門

・兵庫村吉太夫・自分共二、田中々村出入場所へ罷出御見分請申

候、尤双方共二庄屋長百姓ハ場所不罷出候、右御兩人様ハ双方大

庄屋共へ被仰渡候者、布目村彦兵衛指図を以扱申様ニと被仰聞候

ニ付彦兵衛内意承候処、只今有之候水围堤を少引除候而、堤之高

さを相極相済申度と被申候

一 右之節舟寄村善右衛門被參候二付、布目村彦兵衛・善右衛門・自

分同道二而、布目・十楽地境之水围堤之上二而、宮前村願之川掘

替之場所を見渡シ善右衛門へ申候ハ、宮前村願之通川掘替候へハ、

十楽村本田之畑方凡百石斗川外ニ罷成候二付、為掘申事成間敷由

十楽村ハ申候、尤此川筋先年如何様之子細ニ候哉、川筋掘替之所々

有之候得共、只今見分仕候へハ川向欠候而附浜ニ成候所、本田と

附浜之間本之川筋ニ掘替申様ニ相見得候、宮前村ハ願之通本田之

中を掘申所ハ無之候、其上右之通掘替候ハ、水先此堤へはせかけ

可申候、然者是ハ下八九ヶ村ハ構可申候哉、此願相止申様ニ可被

申候哉と申候へハ彦兵衛申候ハ、此堤之障りニ成申義ハ不罷成と

申候へハ、善右衛門申候哉、とかく御了簡請可申と被申二付、其

上ハともかくもと申断候

同十三日

一金七両

国影村次右衛門、江戸納給金

一金三両

同人江戸上下路金、馬代共二

小以金拾兩

五兩 次右衛門二相渡

内 五兩 自分当座預り手形二而渡

右拾兩之次右衛門手形を取藤助様指上候得ハ、我等与下先割銀之内御請取手形御書かへ被遣候を請取申候

同十七日

一 御廻米手形改勘定仕候

一金三兩壹分 舟津村先割銀請取

一 二面村喜右衛門方ハ舟津村清右衛門持山質物書入金壹兩貳分、同

持高書入金貳分貸置候得共、相濟不申候ニ付度々相断候へハ却而

悪口を申相□不申候、吟味仕くれ可申候、此方吟味仕候事□□成

同十九日

同廿日

候ハ、御上へ訴可申哉と断有之二付而、清右衛門方相尋候へハ何

同廿一日

角と不埒成を申二付、弟清兵衛・庄屋弥次兵衛段々聞届、清右衛

同廿二日

門義者上乘仕出船前之事ニ候へハ、喜右衛門方ハ御上へ訴候ハ、

同廿三日

上乘之支ニ成可申候間、喜右衛門方へ参候而詫言可仕候間、手紙

同廿四日

添候様ニと兩人申二付喜右衛門方へ手紙遣し候趣、清右衛門上乘

一 国影村次右衛門江戸納庄屋ニ参候ニ付、今日鯖江迄参候而御用承

ニ参候間歸り候而埒明「」れ迄相待候様ニと申遣し候

候、明廿五日ニ出立仕筈ニ而参候

四月十四日

同廿五日

同十五日

同廿六日

一金壹兩壹分 西谷村先割銀年内不足銀請取

同廿七日

一金三兩 井江葭村先割金ニ請取

同廿八日

同廿九日

同十六日

同晦日

一金五兩 国影村次右衛門当十三日預り金相渡

一元禄十年丑年・同拾壹年寅年前谷村清左衛門酒造元米相改証文、

指上候様ニと園右衛門様<sup>〆</sup>証文案紙被遣候、舟寄村<sup>〆</sup>村次ニ參候、  
園右衛門様御配符有

五月朔日

一重義村孫四郎親太郎兵衛と出入之義ニ付訴状指上候ニ付、早々取  
次可申之処時分柄耕作最中之義ニ候故、益後迄出入相待申様ニと  
申聞候へハ、承引いたし候ニ付口書取置申候

同二日

一右造酒之証文案紙前谷村清左衛門方相渡し候へハ、清左衛門方  
<sup>〆</sup>今日鯖江へ持參仕候由申断候

同三日

一金貳拾貳兩貳分  
一金五兩 舟津村清右衛門上乘給金之手形

右之通預り鯖江へ持參仕候、藤助様へ指上御手形を取相渡可申候  
前谷村  
源八郎(印)

五月四日

同五日  
一前谷村源八昨四日ニ鯖江へ御金持參仕指上罷歸候ニ付、御手形無  
相違請取申候

同六日

覚

一去已御年貢金納下之儀早々取立可相納旨御勘定所<sup>〆</sup>被仰渡候条、  
急度申渡取立可指下旨江戸<sup>〆</sup>申来候、当月晦日を限少茂無残取立  
可被相納候、例年六月下旬迄ニ皆済申付候へ共、今年之儀ハ右之  
通故六月迄相延候儀不罷成候間、村々へも急度申渡シ取立可被申  
候、勿論如何様之儀被申立候而も、我等共ニ不及了簡候間油断有  
間敷候

一村々去已御年貢未進一村切ニ書付可差越候、勘定帳無之未進金高  
不相知候ハ、去秋冬中一村切之納金高書付可被申候、右書付御  
用之由申来候間、此廻状參着次第遂吟味相認、明後七日ニ可差越  
候

一米納口米直段之儀ハ追而可申遣候間、口米之儀ハ相除可被申候、  
已上

五月五日

尾花園右衛門印  
安藤源五右衛門印  
青山藤介印

坂井郡組頭中

已御年貢金同小物成年符返納惣立金之内村々不足之覚  
一金四兩壹分銀貳匁貳分 前谷村

一金貳拾九兩銀五匁七分八厘 笹岡村

一金式拾八兩三分銀拾四匁四分三厘

宮谷村

一金三拾貳兩銀拾貳匁三分

青野木村

一金三分銀三匁八分六厘

西方寺村

一金拾壹兩貳分銀七分三厘

清王村

一金拾貳兩貳分銀拾四匁八分六厘

赤尾村

一金四兩銀八匁六厘

横垣村

一金三拾九兩銀拾四匁四厘

井江葭村

一金式拾兩銀三匁九分六厘

国影村

一金拾兩貳分銀五匁八分三厘

牛山村

一金四兩壹分銀拾三匁八分

西谷村

一金三拾貳兩壹分銀五匁貳分五厘

舟津村

一金式拾兩三分銀拾三匁三分壹厘

十楽村

一金式拾九兩壹分銀拾貳分五厘

田中々村

一金拾六兩三分銀六匁三分六厘

番田村

一金拾九兩銀五匁六分六厘

重義村

一金九兩貳分銀三匁六分五厘

城村

一金三分銀拾貳匁三分式厘

新家

合金三百式拾七兩壹分銀六匁六分五厘

右之通村々納下り書付園右衛門様迄指上申候、則後山村を遣し申候便り二遣し申候

同七日

右之書付今日後山村を鯖江へ持参

同八日

一 村々庄屋長百姓呼寄、残金之内半分、五月切半分同晦日切二取立申候間、得<sup>(其)</sup>意候而取立被申候様ニと申渡し候

「」名寄帳当廿日切二仕立被指越候

「」と目録案紙村々へ相渡申候

右去未進之書付御請取之由園右衛門様を御返事被遣候、次二南都大仏修造金、去巳年も被仰付候間取立指上申様ニと被仰越候

五月九日

同十日

一 西谷村新右衛門・同村伝右衛門と申者草切奉公ニ置候处、当三月を奉公不仕候而作も不罷成候由、以書状断申来り候

同十一日

同十二日

同十三日

一 宗旨御改帳百姓判今日不残取申候、其外御取立之義委細申渡候

同十四日

一 久野右衛門様を被仰聞候義有之候間、三国へ罷出候様ニと被仰越

候

一西谷村伝右衛門昨日呼寄候而吟味仕候処、奉公不仕候事誤入候二付、向後急度定之通奉公可仕之由口書取申候

同十五日

同十六日

同十七日

一三国へ参候

同十八日

同十九日

一田中々村土手之義二付相尋申義有之候間、田中々村庄屋長百姓召連其方明後廿一日二可被参候、為其如此二候、以上

五月十九日

尾花園右衛門

青山藤介

前谷村

次郎左衛門殿

右之通被仰越候二付田中々村へ申遣候

同廿日

同廿一日

一田中々村庄屋長百姓召連鯖江へ可参之処、今日請合金取立申二付、右村之庄屋長百姓斗今日鯖江へ遣し申候、我等義ハ明日可

参由園右衛門様迄手紙二而申上候

一廿日切請合金今日取立申候

同廿二日

一御金百四拾三両壹分請取鯖江持参申候

内

壹両

城村悪金

壹両

舟津村悪金

壹両

田中々村才兵衛へ悪金貸渡

□両

笹岡村悪金

ノ百三拾九両壹分上納仕候

一田中々村水围出入之義、水門之義少二而も手を付申義二候ハ、何様ニ罷成候共出入二可仕候、水門之義ハ其儘指置候、水围土手之義ハ如何様共御了簡次第二被仰付候共、少も違背申上間敷由庄屋長百姓申上候二付、其通藤介様・源五右衛門様へ申上候へハ、庄屋長百姓其通之所存二候ハ、石田御役人と御相談之上御済可被遊由二而何れも罷帰り候  
一御未進金小物成・南都勸化金共二、来六月十日切二少も不残取立皆済仕候様ニと被仰付候

五月廿三日

一鯖江へ罷帰り候

一 巳年諸役入用割帳源五右衛門様へ指上申候、我等手前二有之留帳、  
村々庄屋手前二指置候割帳三通共二相改本帳指上申候

同廿四日

同廿五日

一 三国御廻米船出船仕御仕廻二付、今日久野右衛門様鯖江へ御帰り

被成候由

同廿六日

午五月廿六日迄村々不足金之覚

一 三両貳分銀八匁九厘

一 拾八両三分銀九匁貳分

一 拾七両三分銀拾壹匁貳分四厘

一 拾九両三分銀貳匁壹分七厘

拾兩壹分貳匁七分壹厘 弥次兵衛  
内五兩貳分四匁三分壹厘 五十郎  
三兩三分拾壹匁分五厘 権兵衛

一 壹分銀拾貳匁四厘

一 金六兩三分銀拾壹匁五分九厘

一 金八兩壹分銀拾三匁九分七厘

一 金貳兩壹分銀拾壹匁七分四厘

一 金貳拾七兩銀壹匁八分五厘

一 金拾三兩貳分銀三匁五分七厘

一 金六兩貳分銀六匁三分五厘

前谷村

笹岡村

宮谷村

青野木村

西方寺村

清王村

赤尾村

横垣村

井江葭村

国影村

牛山村

一 金貳兩三分銀拾三匁七分五厘

一 金拾八兩銀六匁七分壹厘

一 金拾四兩貳分銀八匁八分

一 金拾壹兩貳分銀拾三匁六分八厘

一 金九兩壹分銀七匁八分六厘

一 金拾壹兩貳分銀五匁八分九厘

一 金四兩壹分銀七匁五分貳厘

一 金貳分銀拾三匁貳分八厘

合金百九拾九兩壹分銀四匁三分

右者巳御年貢金小物成返納、御蔵前入用・南都勸化惣金辻之内不足

一 金五百五拾貳兩貳分銀五匁壹分四厘

内五百四拾三兩三分 上納金

□ 八兩三分銀五匁壹分四厘

〔 〕 四兩貳分銀七匁五厘 先割金

小以貳拾三兩壹分拾貳匁壹分九厘

五月廿七日

同廿八日

同廿九日

六月朔日

一 当年宗旨御改寺判、昨廿九日迄今日迄二御油田村演仙寺二而請取

申候、不参之寺方八面々組頭之方ニ而判取申候

同二日

同三日

同四日

一 田中々村出入之場所へ明後六日吉田小野右衛門殿と我等立合申筈  
二 候、人足八舟寄組を申付候、尤双方百姓ハ不及申ニ組頭も立合  
不被申筈ニ候

一 我等義者明日出立、布目村彦兵衛方ニ泊り可申候間、其元障被相  
考布目村迄可被参候

一 去巳酒運上来ル十日相納候様ニ其村清左衛門方へ可被申渡候、失  
念有間敷候、以上

六月四日

青山藤助

前谷村大庄屋二郎左衛門殿

右之御書付鯖江を直ニ被遣候、前谷清左衛門方酒運上之義市兵衛  
を以申渡候へハ、急度十日ニ上納可仕由申候

同五日

一 藤助様鯖江を御出、三国迄舟ニ而御越候而、三国を布目村迄十楽  
村之人足五人ニ而御越被遊候而、布目村彦兵衛方ニ石田吉田小野  
右衛門様と一所ニ御泊りニ候

一 病馬・痛馬ニ重荷附申間敷との御書付御渡被成候、追付判形を取

指上申様ニと被仰付候

同六日

一 藤助様・小野右衛門様・御立合ニ而、田中々村地内十楽村松原水  
圍堤を田中々村さいれん迄之水圍堤取除申候、東長田組を人足四  
十人、舟寄組を人足四拾人罷出候而、右之水圍堤取除申候、此出  
入落着之義、小野右衛門様・藤助様双方へ壹通宛書付同文談ニ而  
御渡し被成候

一 藤助様御帰ニ付田中々村を人足三人、番田村を一人、重義村を  
人、メ五人ニ而舟寄村迄御越被成候

同七日

同八日

一 当日を鯖江ニ而大割可仕之由新庄平左衛門を書状参候

同九日

同十日

一 銀三匁六分九厘

宮谷村

一 銀七分

青野木村

一 銀六分三厘

十楽村

一 銀八分壹厘

田中々村へ渡

一 銀貳匁四分五厘

城村

一金五両半切 清王九右衛門の入

一金五両三分半切 同村権兵衛の入

ノ拾壹両

内

六両三分拾壹匁五分九厘 清王村分

三両三分拾匁壹分五厘 青野木村分

三匁五分八厘 清王包ちん

壹匁九分三厘 青野木包ちん

ノ拾兩三分銀拾式匁貳分五厘

残 式匁七分五厘 過二而錢返ス

銀貳匁六分七厘 西方寺村へ渡

一銀貳匁三分九厘 国かけ村

一銀壹匁九分四厘 舟津村

銀八分四厘 井江葭村へ渡

一銀三匁壹厘 赤尾村

一銀貳匁貳分 牛山村

銀壹匁九分三厘 横垣村

一銀四匁三分五厘 重義村

銀壹匁壹分五厘 番田村

銀四分八厘 三平へ渡

銀四匁 笹岡村

一銀拾貳匁九分 西谷村

ノ

一舟津村上乘清右衛門昨九日ニ江戸へ罷歸候由ニ而、納庄屋国影村

次右衛門方の郡内嶋壹段、書状共遣申ニ付、是ハ国影村の持参ニ候

一清王村九右衛門、去巳七月ニ柿原十楽村弥市ニ金子預ケ候処、返

濟不仕候由訴状持参ニ付、同村彦三郎ニ何とそ下ニ而相濟候様ニ

と言伝いたし候

六月十一日

一午年宗旨御改帳拾九冊 郷助様指上

一但組寄帳壹冊共ニ 一巳御年貢名寄帳拾九冊 源五右衛門様へ指上

一馬重荷附申間敷との証文壹通 御同人

一金三兩銀三匁九分七厘 巳春江戸御廻米入用

先割銀藤助様御手形壹通 巳三月廿八日

一金貳拾七匁分銀三匁四分貳厘 右同断

藤助様御手形巳七月十二日、右貳枚手形藤助様へ返ス

一金七百五拾壹兩三分銀九匁四分四厘 惣立金

内式拾兩銀貳匁七分九厘 勸化金

残 七百三拾壹兩三分銀六匁六分五厘

内五百四拾三兩三分 上納金

残 百八拾八兩銀六匁六分五厘

内自分勘定過有之由

一金四拾貳兩貳分銀九匁八分 午春先割金

内

拾両 藤助様御手形

拾八両銀式匁七分五厘 右同断

残 拾四両式分銀七匁五厘

式口残金式百式兩式分銀拾三匁七分

右之通指引二候

同十二日

一金式百拾四兩式分半

鯖江持参之金

□□<sup>(銀)</sup>式拾五匁七分

右同断

金百八拾八兩銀六匁六分式厘

御年貢金上納

金拾四兩式分銀七匁五厘

先割金上納

残 小以式百式兩式分銀拾三匁六分七厘

拾式兩銀拾九匁五分七厘

内

壹兩 田中々村才兵衛悪金

壹兩 同長兵衛悪金

壹兩 十楽村悪金

壹兩 清王村悪金

×四兩

残八兩銀拾九匁五分七厘

一金四兩壹分銀拾壹匁八分九厘

御普請人足ふち米代

此米四石四斗六升七合五勺

此人足八百九拾三人半

内

四匁式分式厘

番田村

四匁九分

田中々村

九分九厘

宮谷村

残 ×拾匁壹分壹厘

四兩壹分銀壹匁七分八厘

藤助様を請取手形判形仕候

右之通鯖江持参指引如此二候

一宮谷村義太夫大割二立合二鯖江へ参候、彦五郎方二而大割仕候

六月十三日

一 国影村次右衛門、江戸郡内嶋壹端舟津上乘清右衛門二言伝遣し候

処、もやう悪敷候二付、此度藤助様江戸へ御越被遊候二付、言伝

次右衛門方へ返し申候

同十四日

口上書

去已之御口米村々庄屋長百姓去冬預り置申候、此節三国湊へ津出

仕候様二と被仰渡奉得其意候、乍然去年者水損故米生悪敷御座候

二付、米拵大分失脚有之迷惑仕候、只今之米相場平均を以壹石二

付六拾七匁五分相極、石田領御口米代銀相納候間、御代官所御口

米も右直段並代銀指上申度奉存、願之通被仰付被下候得八百姓勝  
手二罷成難有奉存候、依之村々百姓為物代連判を以奉願候、以上

午 五月

牧谷村

六郎右衛門 印

下新庄村

平左衛門 印

戸口中村

弥左衛門 印

松ヶ谷村

勘 兵 衛 印

猪嶋村

次 兵 衛 印

舟寄村

善右衛門 印

後山村

平 助 印

前谷村

次郎左衛門 印

鯖江 御役所

右之通判形仕指上申候、右之通与下村之願状有

六月十七日

一藤助様江戸へ御出立被遊候、鯖江二而御暇乞申候而何れも今日罷

歸り候

同十八日

巳年御口米代銀仕出し

一銀四拾六匁四分四厘

前谷村

一銀貳百七拾七匁四分三厘

笹岡村

一銀貳百六拾貳匁六分四厘

宮谷村

一銀貳百九拾八匁三分四厘

青野木村

内

百六拾貳匁四分壹厘

弥次兵衛

七拾九匁三分壹厘

三平

五拾六匁六分三厘

九右衛門

一銀拾貳匁八分三厘

西方寺村

一銀百壹匁四分五厘

清王村

一銀百貳拾壹匁四分三厘

赤尾村

一銀四拾四匁三分五厘

横垣村

一銀三百六拾壹匁四分

井江葎村

一銀百八拾七匁四分五厘

国影村

一銀九拾七匁四分

牛山村

〔三〕 金貳分 下新庄平左衛門二渡寛、内渡金之内

〔一〕 壹分 郷助様貳分之内扣

一銀四拾匁八分四厘 西谷村

一銀貳百九拾八匁八分九厘 舟津村

一銀百貳拾壹匁五分七厘 十楽村

一銀百四拾壹匁六分八厘 田中々村

一銀八拾五匁六分六厘 番田村

一銀九拾三匁八分三厘 重義村

合銀貳貫五百九拾三匁貳分四厘

此米三拾八石四斗壹升八合

但壹石ニ付銀六拾七匁五分ツ、

同十九日

同廿日

一清王村九右衛門方の柿原十楽村弥三兵衛預ケ金之義ニ付、十楽村庄屋中方へ何とそ下ニ而埒明候様ニと申遣候

同廿一日

同廿二日

一右清王村九右衛門出入之義、下ニ而相濟不申候由十楽村の断有之ニ付、下兵庫村武兵衛方へ手紙遣し申候

一態致啓上候、其後ハ久々不得御意御物遠ニ罷過候、貴様御氣分之儀御快氣御座候哉承度奉存候、甚暑之節御難儀可有御座候と奉察候、少参を以御見廻可申上候処ニ一円不得透乍背本意候

一清王村九右衛門方の御組下柿原十楽村弥三兵衛方へ、去七月ニ金子貳両預置候付、相濟候様ニと九右衛門方の度々相断候へ共埒明不申候由ニ而、九右衛門方の訴状差上候、此金子之儀十楽村ニかふき仕候由ニ而、入用□ニ取替申候由ニ候へハ、石田表貴様御方へ茂露頭仕候へハ十楽村之ためも不可然存候ニ付、十楽村庄屋中へ何とそ下ニ而相濟申様ニと、我等方の内証を以申入候へ共相濟不申候由断有之候、然上ハ鯖江へも御取次可申上事ニ御座候へ共、貴様も一往御内意申上候、何とそ下ニ而相濟候へハ可然事と存候間、十楽村弥三兵衛手前御吟味被懸重而御報可被仰下候、已上

六月廿三日

岡崎武兵衛様

人々御中

□□書状清王村九右衛門方の武兵衛方へ遣し申候

一今日割方仕候ニ付、御口米・代銀共ニ当七月八日切ニ銀子持参候様ニと申渡候

六月廿三日

一大麦直段付・手本麦共ニ舟寄村の鯖江へ指上申候

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日 大雨降申候

一下兵庫村武兵衛方を最前之返事参候二付、其段清王村権九郎二申聞候

同廿八日

一大水出候而村々田地へ水入申候

同廿九日

同晦日

七月朔日

同二日

同三日

同四日

一今日迄大雨降続候二付、番田・重義・田中々村・十楽田地へ水付

込申候

一去晦日夜舟津村弥次兵衛家之後山欠落申由断二候

一南都勧化金一両日之内二相納可申候、御口米代銀八当十一日二相

納候様ニと、園右衛門様を御廻状後山を持参二付、舟寄善右衛門

方へ遣し申候

一村々水入注進ニ鯖江へ遣し申候

同五日

一村々水入田地見分ニ罷出候得共、重義・番田・十楽・田中々村田

地へハ水入申て引不申候二付、様子見得不申候二付罷帰候

同六日

一去ル頃之洪水ニ而坂井郡之内里方村々水込ニ成候由、平助・善右衛門方を注進申上候処前谷組を何共不申来候、水入有之候ハ、七日・八日両日之内書付指上候様ニと園右衛門様を被仰越候二付、我等組下重義・番田村・田中々村・十楽村水入ニ罷成候二付、見分仕帳面指上可申と奉存、昨日右村々へ罷出候得共水未引不申候二付、村々へ参着候事不罷成候二付御注進延引仕候、右四ヶ村ハ今日迄も水引不申候、然共今明日之内に相改、八日ニハ帳面指上可申由御返事園右衛門様へ申上候

同七日

一村々田畑水入帳持参二付請取、此方二而(清帳)二仕立我等奥判仕鯖江へ指上申候

覚

一金式拾両銀式匁七分九厘 大仏勧化金

一金拾両銀拾匁七分壹厘 割銀之内ひかへ銀之残り

一金壹両式分銀九匁六分七厘 包賃年内相渡残り銀

ノ三拾壹両二分銀八匁壹分七厘

此金三拾式両ニ而請取

「」申候、鯖江へ持参仕方々へ払手形を以引替可申候、以上

「一」七月七日

前谷村  
源八(印)

金壹兩貳分銀九匁六分七厘 包賃銀

覚

掛屋十兵衛留主ニ而彦五郎手形

午歳夏割銀  
一銀四百八拾四匁三分貳厘

大割

残  
三拾壹兩三分銀八匁壹分七厘

右同断  
一銀貳百壹匁三分九厘

内割

銀六匁八分三厘 源八郎ニかし

六八八拾五匁七分壹厘

内

同十日

七拾五匁

引替出銀有

同十一日

残  
六百拾匁七分壹厘

同十二日

此金拾兩銀拾匁七分壹厘

同十三日

右之通金子指越候間御請取被遊候而御手形可被下候、以上

午  
七月八日

前谷村  
土屋次郎左衛門

下新庄村  
福岡平左衛門様

右之通午夏割銀指引平左衛門方へ書付遣し候

同十四日

七月八日

同十五日

一源八鯖江へ右金子水入帳を為持遣し候

同九日

一金三拾貳兩 源八ニ相渡鯖江遣し申候

内

金貳拾兩銀貳匁七分九厘

南都勸化金園右衛門様手形

金拾兩銀拾匁七分壹厘

大割・内割金彦五郎手形

同十六日

一織右衛門様能州御帰ニ付舟寄村御意得候

同十七日

一右重義村太郎兵衛女房村ニ而相濟不申候由申来り候ニ付、村ニ而相濟不申義ニ候ハ、早々庄屋長百姓中參候様ニ申遣候

覺

一金四拾三兩銀拾三匁式分四厘 御口米代

一金壹分 八まん屋

□□□分 田中屋

□□□分 宝性院

一銀壹匁六分 森介

ノ四拾四匁式分

右之金子預り申候、鯖江方々払候而手形を以さん用可申候

七月十七日

源八郎(印)

右之金子方々へ払候而手形共請取申候処相違無之候

我等上方留主中権右衛門覚書

七月十八日

同十九日

一園右衛門様・久野右衛門様水入御見分に十九日之晩舟寄へ御越被遊候由、後山方申来り候

同廿日

一我等儀早天ニ舟寄へ參園右衛門様・久野右衛門様之御目ニかゝり、御見分之段々被仰候間承候へ者、畑方斗御見分にて田方之儀わ御見分不被遊候由仰渡され候間、いそぎ罷かへり候而重義・番田村

・田中々村・十楽右四ヶ村之庄屋長百姓めし寄、畑方斗水入御見分被遊候由被仰渡候間、畑方斗御安内申候様ニとよろしく相談いたし、御廻之道筋之儀も段々申渡し、扱御役人様方谷畑村ニ御泊

り被成候間、右四ヶ村庄屋中谷畑村へまいられ候而、舟寄善右衛門殿お頼御目見得いたされ候様ニと申渡し、それ方晩かたニ罷成候て十楽村与三右衛門と同道いたし、我等も谷畑村江參御役人様

かたに御目ニかゝり、明日者重義村・番田村・田中々村・十楽村右四ヶ村畑方御見分被遊被下候様ニと申上候へハ、園右衛門様被仰候ハ、ケ様ニ相廻候ついでに候へハ、田方おも一通御見分被遊

可被下由被仰渡候間段々承、それ方田中々村へ參才兵衛方ニ泊り申候

一横垣村・西谷村へハ申遣し不申候、畑方斗之御見分ニ御座候間申遣し候に及不申候

一舟津村弥次兵衛ハめし寄候て申候ハ、其村山くゑ候所御見分請可申之由申候へ者、其座に十楽村与三右衛門有合候て与三右衛門被申候ハ、なおひなわてより舟津村へ御越被遊候へハ、十楽村之な

わしろ田御目ニかけ候儀彦村之めいわくニ候間、山くゑ申候所ハ重ても御見分請申候間、此度之御見分相やめ被申候様ニと、弥次兵衛ニいろいろわひ事被申候へ者弥次兵衛被申候ハ、我等儀ハワ

ツかの事二候、十楽村ハ壱村之めいワくいたされ候儀ニ候へハ、なるほとく此度之御見分請候事相やめ可申由にて舟津村へハ御越被成候

同廿一日

一我等儀田中々村を罷出、重義村へ御むかいニ参候てわたし舟お川上へ引のほし、村壱町ほと川上にて御舟にめされ候て、重儀村之石はねへ御上り被遊、それより畑方段々御見分被遊、十楽村与右衛門かたにて御昼休被遊候間、昨日を申渡しひやむき申付、御きけんよろしく十楽村御出候て十楽村御ふしん所御目ニかけ、それる布目村渡し舟にて宮前村へ御越被遊候間、四ヶ村之田畑不残御見分請候て、我等儀宮前村ニ而御いとまこい申罷かへり申候

同廿二日

一舟寄村へ御用ニ遣

一重義村太郎兵衛女参候て、かや・かたひらとられ候儀なんき仕候間、何とそ申つけくれ候様ニといろく申候間我等申候ハ、其儀ハ我等申付候儀なり不申候間、おやかへり被申候まで相待申候様ニと申渡ししかへし申候

同廿三日

一重義村・番田村庄屋中水入御見分之時罷出候礼ニ被参候間、重義

村太郎兵衛女参申来候段々重義村庄屋中ニ申きかせ候

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

覚

一水損畑方之内皆損并ニ大痛・中痛右三段ニ仕訳、尤銘々有坪・地主名共ニ横帳ニ書記、来五日迄之内ニ指出可申候、右畑方仕付候作毛何々と畑壱枚毎ニ、立毛畝歩之はら書ニ致可被申候

一田方之儀まへかた申候通追而披見之節相知申事ニ候間、帳面仕立ニ不及候、以上

七月廿七日

尾花園右衛門

斎藤久野右衛門

舟寄村大庄屋

善右衛門殿

後山村大庄屋

平助殿

前谷村大庄屋

次郎左衛門殿

めう田

一上畑何せ何分

何右衛門

大豆

森分

一中畑何せ何分

何兵衛

小豆

如此之通帳面仕立可被申候、尤此はいふ重而此方へ御返可被申候、

以上

追而右水損畑帳面之儀、尤一村切に仕立出可被申候、尤まへ方見分申事ニ候間相違なき様ニ申付可被申、帳之奥ニ上中下之反歩分、其内ニ皆損・大痛・中痛寄書付可被申候、以上

右之寄

上畑何反何畝

内

何程 皆損

何程 大痛

何程 中痛

中畑何反何せ

内

何程 皆損

何程 大痛

何程 中痛

右之通帳之奥ニ寄書付可被申候

同廿八日

一右水損人別御改帳之儀、重儀村・番田村・田中々村・十楽村之庄屋中めし寄、右帳面申渡へくとそんし候ていそきくはいふ遣し申候

同廿九日

一重義村・番田村・田中々村・十楽村之庄屋めしよせ、水損帳之儀申渡し候

八月朔日

口上書

一昨廿八日之昼時分同昨廿九日之七ツ時迄大風吹候而田畑立毛ニ大分あたり、早稲之るい、粟・稗損毛仕候、残立毛当分痛之位相知不申候へ共御注進申上候、以上

八月朔日

前谷村大庄屋代  
尾 園右衛門様

一如此後山平助と相談仕候而、平助と一所ニまえ谷村之人足ニ而鯖

江へ指上申候

同二日

一昨日鯖江へ指上申口上書之御返事、園右衛門様を被遣候

一二日之夜ニ入候而城村二郎右衛門方を申越候ハ、安嶋浦ニ而坂田御城米舟なん風ニあい御米少打申ニ付、布目村彦兵衛殿を打米取上り申候間城村新家へも舟出し候様ニと申来候間、御しらせ之ため申越候由次郎右衛門方を申被越候間我等申越候ハ、たとへ浪あらく候共御城米ニ候間舟出し可被申由申遣し候

同三日

一舟寄村へ遣し候

一我等儀後山村へ参候而、茂右衛門殿・平助と相談いたし候へ者茂

右衛門殿被申候ハ、安嶋迄参儀ハいらさる(事カ)□に候間、彦兵衛殿方

へ状遣候て返事次第二而鯖江へも申遣し候様ニと被申候間、罷かへり状したため、十楽村を彦兵衛殿かたへ申遣し候

同四日

一布目村彦兵衛殿かたへ遣し候状之返事今日参候間、平助と相談いたし口上書鯖江へ指上候、前谷村之人足にて

同五日

一鯖江へ遣し候使夜二入かへり申、園右衛門様南条郡へ御越被遊口

上書之御返事参不申候

一重義村・番田村・田中々村・十楽村之庄屋中水入御改之帳面持参

被申候間請取申候

同六日

同七日

一鯖江を御法度書後山を参候間、写取村々へ配符まわし申候

一如此御書付出条、村々拜見仕大小之百性・水吞等二いたるまで念入申渡、堅相守可申旨奥書ニ判形取之、早々可被指越候

一右御書付写おき先々へ早々相廻可申候、留候方を此方へ可被相返候、油断有間敷候、以上

午 八月五日

青山藤助印

小林郷助印

杉山織右衛門印

舟寄村大庄屋

善右衛門殿

後山村大庄屋

平助殿

まへ谷村大庄屋

次郎左衛門殿

一重義村・番田村・田中々村・十楽村之水入皆損・大痛・中痛人別御改帳、明日後山村を鯖江へ遣し被申候はずにて、平助方へ園右衛門様へ之状一通・水入帳四冊遣し申候

同八日

一村々庄屋長百性めし寄御法度書之判形取申候

同九日

一御法度書平助方を一通参候、又伴助殿かたへ之状一通、笹岡村人足にて鯖江へ指上申候

同十日

一昨日織右衛門様迄指上申候御法度書遣し申候人足、今日七ツ下り二罷かへり申候、園右衛門様御事御ふしん所より何時御かへり可

有茂相知不申由、御留主人申越候由市右衛門申候

同十一日

同十二日

同十三日

一 小林郷助様も御ふしん所御改ニ御出被遊候由被仰越候間、御ふしん所之村々へはいふ出申候、郷助様之御状後山村を夜ニ入候て参申候

同十四日

一 郷助様御ふしん所御改之ため後山村へ御越被遊候間、我後山へ参候て御改之段々承候へ者、御ふしん御いそきのよし仰わたされ、清左衛門酒改も可被遊由仰わたされ候間、扱我等後山を罷かへり候て、ふくい木屋太郎兵衛かたへも状遣し申候、重義村・番田村・十楽村・田中々村・笹岡村・城村へも御改之由はいふ廻申、城村へハ庄屋長百姓中此方被参候様ニと申遣し候

一 十五日ニ郷助様我等ニ御とまり可被遊候由仰わたされ候

同十五日

一 郷助様後山村を御出被遊候所ニ、柵村ニ而あめふり出候間村々御改無之、我等かたへ御入被遊清左衛門酒御改被遊候而、ここもとに御泊り被遊候

一 笹おか村庄屋長百姓召寄候へ共、宗左衛門儀ハ福居へ参居不申候ゆへ宗兵衛・宗右衛門参候而、御ふしんいまた出来不申由申候間我等申候ハ、何とそ明日之内ニ御ふしん所仕立被申候様ニと申付かへり申候

一 城村庄屋長百姓召寄、しほはま御ふしん之儀吟味仕候、是も明日之内御ふしん所仕立候様ニと申付かへり申候

同十六日

一 十六日之朝御料理ハ清左衛門方にてしたくいたし候間、郷助様朝御料理まへに笹岡村之御普請所御見分可被遊由仰出され候間、笹岡村へ御供仕候て御普請所残御目ニかけ、それを又御供仕罷かへり、郷助様舟寄善右衛門殿・平助殿御供いたされ清左衛門方へ御出被成候、其間ニ笹岡村人足共おそなわり候せんきいたし申候

一 郷助様清左衛門方を御かへり被成、かこにて御出被遊候間我等御供仕、柵村御ふしん所御改之次第見申候而、又それを郷助様ハ里竹田・玄女・御油田之御普請所御見分被遊候て、それより金津へ御出被成候間、拙者と善右衛門儀ハ柵村を御いとまこい申罷かへり、したくいたし候て善右衛門殿同道にて金津へ罷出候へ者、弥助まへにて御目にかかり、それより御供いたし若藤屋弥三右衛門方へ御昼休被遊候間、此所にて人そくおつ□申候、人足ハ重義村を式人、番田を式人出申、それを段々御普請所御目ニかけ、又十楽村与右衛門方へ御入被遊候て御休被遊候て、それより三国へ御

越被遊、平助・善右衛門・伊兵衛・我等供いたし三国へ参申候

同十七日

一我等儀十六日之夜八ツ時分より殊之外ニわすらい出申候

同十八日

同十九日

一城村へ御ふしん所之事、いそきく仕立候様ニと三国を申遣し候

同二十日

同廿一日

一又城村へふしん所之事三国を申遣し候、我等儀のりものにて三国

を今日罷かへり申候

一笹岡村へも御ふしん所之事申遣し候

同廿二日

一城村・同新家村之庄屋長百性中被参申され候ハ、御ふしん所之儀

度々申付させられ候へ共、殊之外なるそんじ様にて御座候間、只

今参二いたし立申儀なりかたく候由申来候間我等申候ハ、左様之

儀二候ハ、さいせん藤兵衛此方へ参せツ、郷助様へ段々申上候ハ

はいかやう共御しゆんも可有之ニ、おそなわり申候段ふと、きの

よしせんきいたし候へ共、我等しゆんにおち不申候間、さし(差紙)かミ

にて鯖江明日郷助様迄参候様ニと申付かへり申候

同廿三日

一笹岡村へ又御ふしん所之事申遣し候

一金津大文字屋源介方を申遣し候ハ、文右衛門様今日下通り御国へ(古郡年明・鯖江代官)

御入被遊、三国通り御越被遊候由細呂木を申来り候、其元へハ何

之たよりも無之候哉と申遣し候間、おりふし平助之(マ、)もとにい申さ

れ候間、その段申きかせ候ハ□てとかくに金津へ参き、□(わカ)け可申

と、ここもとよりすぐに金津へ被参候て、夜入かへり申され候間

たつね申候へ者、殊之外なるちかいのよし申され候

同廿四日

一さいせん郷助様御普請所御改ニ御出被遊候時分、申付候笹岡村之

人足おそなわり二付、今晚四人共二めしよせせんき仕候、庄屋宗

左衛門いろくわひ事申候間かたく申付返し申候

同二十五日

一城村・新家村之庄屋長百性鯖江を昨日金津迄かへり候処ニ、城村

次郎右衛門儀ハあし(を)おいたミ候由にて、又左衛門斗此方へ参候て

郷助様御返事并御口上申きかせ候間、左様二候ハ、明日・明後日

之内ニ其元へ参候て見分いたし可申候間、其村を人足壱人遣し候

様ニと申渡ししかへし申候

同廿六日

一我等儀城村へしほはま見分いたし、間尺相改おき、砂之寸も相改、しほはまの(絵図)ゑすいたし郷助様へ指上可申とそんし候  
 一平助儀ハ今日鯖江へ被参候

同廿七日

一しほはま間尺相改、ゑすおいたし、城村を罷かへり、それる鯖江へ参候ニ、ふくいにて平助鯖江をかへられ候にあい申候、平助被申候ハ、殿様御つき被遊候儀いまた相しれ不申候間□□り申候由被申候間、平助と□□いニ泊り申候(福井)

同廿八日

一木屋太郎兵衛方殿様明日御つき被遊候由申被越候間、いそきふくいより又鯖江へ平助と参候申候、然者牧谷村太左衛門方申被越候ハ、廿九日今庄御泊り、晦日ニ鯖江へ御つき被遊候由申来り候

同廿九日

一今日鯖江ニ(逗留)とうりういたし御役人様方へ御見舞申入候、扱御役人様方へ申候ハ、次郎左衛門儀上方へ本寺参仕いまた罷かへり不申候、近日罷かへり可申旨殿様へ被仰上可被下候由、いづれも様方

へたのミ入候

同晦日

一何も大庄屋衆又一組る庄屋一兩人つゝ、召つれ罷出可申由、善右衛門方廿八日ニ申来り候へ共、ふくいよりかへり候へ者庄屋めしつれ候事なり不申候よし、徳分田村・新庄村を出入人拾人斗参候、又国かけ村次右衛門・十楽村与右衛門御用ニてめしよせ候間、何も庄屋ニいたし出し申候

一村々庄屋中ハ上鯖江と下鯖江之間にて御目見へいたし申候、又大庄屋中ハ松森迄参候て御目見へ申候、殿様八ツ時分ニ鯖江へ御入被遊候間、我等くもやとへかへりしたくいたし、又御役人様方へ参候、御よろこひ申入罷かへり申候

閏八月(朔)明日

一善右衛門・平助同心にて罷かへり申候

同二日

一さいせん指上申候水入御改帳、分米付無之候間園右衛門様を請取罷かへり分米付仕、今日重義村を指上申候  
 一まへの八月晦日ニ大風吹申候間、たい□そは・大豆ニあたり申候間、此よし園右衛門様迄口上書指上申候  
 一十楽村へ明日御ふしん所改ニ罷出可申由申遣し候

同三日

一十楽村へ御ふしん所改ニ参候へ者、ことのほか雨ニあい少夜ニ入  
かへり申候

同四日

一柵村ニ罷有候喜兵衛手代吉太夫おめしよせ、十楽村之杭木・坪な  
とも不足ニ候間申付候ため申遣し候へ者、吉太夫ことのほかわす  
らい申由にて、半兵衛被参候間あらまし申渡し、吉太夫ニ此よし  
申わたされ候様ニと申遣し候

同五日

一城村新家之次郎右衛門・又左衛門参候間、しほはま之おき砂之式  
拾壹坪不足有之候間、御見分まへに砂おきたて候様ニと申渡し候  
一殿様能州へ明六日ニ御越被遊候由善右衛門方の平助・我等方へ申  
被越候ハ、殿様能州へ御越被遊候へ者、舟寄又金津・大正寺御泊  
りもしれ不申由申来り候間、ます与下村々へも申遣し、何へん  
六日之九ツ時分ニ清王村へ罷出被申候様ニと、五日之夜之八ツ時  
分ニはいふ遣し申候、又夜朝(明カ)ニ弥金津源助かたに御泊り被遊候由  
に又々申来り候

同六日

一我等舟寄へ参候間、町はなにて茂右衛門殿・平助・我等一所御目  
見へいたし、それより御供いたし参候へ者、善右衛門かた御こし  
かけられ候て、又茂右衛門殿・平助・我等三人めし出され候間、  
織右衛門様御取次にて御目見へ申、それより又御供いたし、それ  
より我等儀ハ御先へたち、源助かたへ参候て御つきのよししらせ  
申候

一織右衛門様へ申入御いとま申請、五郎兵衛方平助・我等泊り申候  
て、与下庄屋中にあい申、何もへ申わたし候ハ、今日ハこゝもと  
に御泊り被遊候間、いつれ罷かへり被申候て、明日七ツ時分ニ金  
津壺里つかまで罷出候様ニと申渡し庄屋中かへし申候、扱それよ  
り平助と我等織右衛門様迄御見舞申候へ者、織右衛門様仰渡され  
候ハ、平助・我等二明日細呂木まで御供いたし候様ニと仰渡され  
候間、御請申罷かへり、又夜ニ入候て五ツ時分ニ御見舞申候へ共、  
さして御用も無之候間はやくかへり申候、殿様昨日八ツ時分ニ金  
津へ御付被遊候

同七日

一殿様朝六ツニ御立被遊候間我等儀ハ御安内申、さて金津たい之上  
にて村々庄屋中御目見へいたされ、我等・平助細呂木まで御供い  
たしまいり候へ者、細呂木にて御いとま被下候間罷かへり申候  
一よめかおとし茶屋之儀御たすねニ付我等申上候ハ、よめかおとし  
茶屋之儀ハ与兵衛様御代官之(マ)

同八日

同九日

一十楽村石はねふそくに二付、<sup>(符)</sup>さいせん申候通にいたし立候様二と申遣し候、源八おたのミ申越候、我等儀笹岡村之御ふしん改ニ参候

閏八月十日

一我等上方も罷歸候而、昨晚鯖江ニ御泊り候而御陣屋へ罷出、殿様早速御下着之御悦共申上候

一郷助様与下村々御普請之義被仰聞候

一七月十八日ニ出立仕伊勢参宮、夫も熊野・高野・西国三十三所之順礼、其外所々不残拝巡り候て今日家礼喜八・北村五兵衛共ニ罷歸候

同十一日

同十二日

同十三日

同十四日

同十五日

一笹岡村庄屋長百姓中被参候二付、昨日其村弥五兵衛も参候二付、作兵衛山出入之事村中扱被申候ハ、下ニ而相済申様ニと□聞候

間、早々扱相済被申候様ニと申候

閏八月十六日

同十七日

一重義村太郎兵衛夫婦共ニ参候二付、孫四郎当春書付指上候得共御役人中御内意申上候へハ、山出入ハ御役人御聞届難被成出入二候間、<sup>(古郡年明・鯖江代官)</sup>秋中文右衛門様御入迄相待可申候、持高田畑之義ハ只今迄之通精二入、孫四郎作りを申様ニと被仰聞候二付、其段孫四郎ニ申渡候へハ其通ニ仕置候二付、其内扱候而相済申様ニと村中申渡候得共于今相済不申候由、然者近日殿様能州も御入之節書付取次可申候、弥相済申間敷事ニ候哉、相談仕四五日中ニ返事被申候様ニと申聞候

同十八日

同十九日

一福居木屋喜兵衛ニ逢候二付、十楽村石はね之事、石坪不足之事、早々御帳面之通仕立申様ニと申渡候

同廿日

一大正寺北河屋善右衛門相談之事有之候而参候、段々様子承届候

同廿一日

同廿二日

一殿様明廿三日ニ能州<sup>〆</sup>御着被遊、舟寄村ニ御泊り可被為成由ニ付、藤助様舟寄村迄御越ニ付権右衛門舟寄村迄遣し申候

同廿三日

一藤介様舟寄村御出被遊候処、我等金津迄罷出御目ニ懸り御供仕細呂木村坂之上迄参候、殿様江御目見得仕御供ニ而罷帰候、平助・庄右衛門・権右衛門三人ハ細呂木迄罷出候、前谷組・後山組庄屋・長百姓・後山茂右衛門嫁迄罷出候、舟寄与庄屋・長百姓・善右衛門ハ下関村迄罷出申候、舟寄村へ御入被遊明廿四日<sup>〆</sup>当郡御検見可被遊由ニ候故何れも申上候ハ、当郡之内御一宿ニ而御済可被遊御義ニ候ハ、御勝手次第可被遊候、又村々細ニ御検見於被為成候ニハ、未立毛あからミ不申候へハ当分ハ是非難知候、御指延候而来月節前後御覽被下候様ニと申上候へハ、先明日ハ鯖江御入可被遊由ニ候

一藤助様被仰聞候ハ、宮前村<sup>〆</sup>金津川筋掘替之義願状指上申候、其内前谷村二郎左衛門二十楽村吟味仕候様ニと申談候得共、于今何之返答無之由書付之内ニ有之候、左様之事も有之候哉と御尋被遊候ニ付、去冬宮前村<sup>〆</sup>拙者方へ相断候ニ付、十楽村へ為申聞候へハ為掘申事成間敷由申ニ付、当春中田中々村水围出入之場所へ藤助様・小野右衛門様御出之節、舟寄善右衛門御用有之由ニ而十楽村へ被参候ニ付、布目村彦兵衛同道ニ而布目・十楽之境水围堤之

上ニ而、宮前村掘替願之場所を見渡シ、宮前村願之通川掘替候へ

八十楽村之畑百石余川外ニ成申義ニ候へハ、為掘申事成不申候、尤此川筋ニ先年如何様之子細ニ而候哉、川掘替之場所所有之候得共付浜之義川外ニ成候様ニ掘かへ、本田を掘申所ハ相見へ不申候、宮前村<sup>〆</sup>願之場所者往古<sup>〆</sup>有之候水围堤之内を掘申度との願候へハ、十楽村曾而承引不仕候、其上宮前村願之通川掘かへ候へハ水先此堤へはせ付候へハ、十楽・布目村<sup>〆</sup>下八九ヶ村<sup>〆</sup>構可有候得ハ、掘申事成間敷由申候へハ彦兵衛申候ハ、此堤ニ障り申義ニ候へハ曾而不罷成と申候へハ善右衛門申し候ハ、宮前村<sup>〆</sup>願之事ニ候へハ御了簡次第ニ可仕と□□□付、御了簡を請可申との事ニ候得ハ、下ニ而とかく可申様も無御座候ニ付如何様共と申候、此外ニ詮義可仕様も無御座候と藤助様へ申上候

同廿四日

一前谷村清左衛門酒道具諸色相改候様ニと帳面之御案紙被遣、改之様之段々藤介様被仰付、御案紙写取本紙返進仕候

一舟寄村<sup>〆</sup>罷帰候ニ付、清左衛門悴義右衛門呼寄候而酒道具改之残  
一御検見御廻り村付三人相談仕、書付重而鯖江へ指上候様ニと被仰付候

一舟寄村<sup>〆</sup>罷帰候ニ付、清左衛門悴義右衛門呼寄候而酒道具改之残

之品々申聞、帳面之案紙渡申候

閏八月廿五日

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一 鯖江御用申遣候、前谷村人足

覚

追而左之村順帳其元二而横帳二相認、今日遣し候下帳共二大野郡も御越之節指  
一旦那御事明廿九日南条郡御出、来月二日陣屋へ御帰、翌二日大  
出可被申候、此手紙・右帳面一同二可被相返候

野郡へ御越、村々御見分、来月七日・八日頃坂井郡へ御移り可  
候被遊

一 御巡見村順帳下書調遣候間、其元二而道法并村々庄屋之名書付

可被申候、但村順悪敷所ハ何分ニも其元二而相談之上なおし可

被申候、御普請所其外村高之義ハ帳面之通用可被申候

一 御昼休之村ニ而家掃除無用ニ候、泊宿もやき飯持参いたし候間、

休村ニ而ハ湯斗出候様ニ可被申付候

一 御泊宿ニ而所ニ無之魚・鳥・酒用之義堅無用ニ候、若其所ニ無

之肴等有之者急度致詮義越度ニ可申付候間可有其心得候、此段

兼而被仰付候得共猶又為念如此ニ候、以上

閏八月廿八日

舟寄村

善右衛門殿

青山藤助 印

前谷村

二郎左衛門殿

後山村

平介殿

右之外村順・道法付御案紙被遣写置候

右之御書付、村順御書付、善右衛門手紙さいせん平助方も被指越

候、村順書付共ニ村次ニ而平助方へ遣し申候

一 御検見御廻り之義ニ付庄屋中被参候ニ付、御廻り村順之御書付、

道法之義村之庄屋中へ申渡候

九月朔日

一 笹岡村清右衛門持分之田有坪打越田数四枚、年貢米五斗ニ山室村

平兵衛ニおろし置申候処、昨日笹岡村利兵衛・助右衛門かり取申

候、春も作り付候作人田主へも何之断も不申かり取申義盗人ニ紛

無之候間、吟味仕候様ニと清右衛門申来候ニ付、村々道筋御ふし

ん所改ニ参候ニ付、笹岡村利兵衛・助右衛門相尋候得共宿ニ不罷

有、庄屋長百姓申候ハ、御検見前ニケ様之出入申上候事村中之難

義ニ候間、一先村ニ而吟味仕度と申ニ付、如何共被致相済可申候、

併作人他領之者ニ候へハかり取候稲ハ相改、庄屋長百姓中預り置

可被申と申渡し候、夫も村々へ罷越候

同二日

一 御検見道筋相改申候

同三日

〔二〕新家又左衛門居屋敷の東之畑同村九郎兵衛「」二候処、漆ノ木植置候ニ付落葉等又左衛門「」敷落候而又左衛門妻毎年五度七度ツ、「」ふれ相煩候ニ付、植替くれ申様ニと申候得共九郎兵衛承引不仕候而、当年もかふれふせり罷有候と相断候ニ付、罷越候而見分仕候処、又左衛門屋敷之内枝葉落散申義も紛無之、又左衛門妻煩申義無之候ニ付村人ニ相尋候へハ、毎年煩申義も偽り無之由申ニ付、漆を植少々徳用有之候とても人を為煩申「」間、漆ノ木植かへ可申候、それとても承引無之候ハ、御検見之節御役人様方御目ニ懸ケ御了簡次第ニ可仕と申候得ハ、植替可申由ニ付、其方了簡次第ニ仕候様ニと申渡し候

九月四日

一御検見御廻り村順・道法付、当郡一所認候而被指上候様ニと申平介方へ遣し申候

同五日

一笹岡村清右衛門申来り候ハ、利兵衛・助右衛門田を刈取申義、村ニ而吟味仕候得共埒明不申候之由宗左衛門被申ニ付、当二日ニ鯖江へ参候得共御検見ニ御出、其上二郎左衛門手紙を取参候様ニと被仰付罷帰候由申ニ付、朔日ニ此方へ相断候ニ付、早々村へ参候得共利兵衛宿ニ居不申、何之様子も聞届不申庄屋長百姓下ニ而様

子吟味可仕と申ニ付、夫の村々へ参三日ニ罷帰候処、其内を相待不申鯖江へ参申所存ニ候へハ、此方ニ而吟味可仕様も無之候間、以書付申上候ハ、早速取次可申聞候

一右清右衛門訴之義ニ付、利兵衛・助右衛門・庄屋・長百姓共ニ呼寄様子段々相尋候処利兵衛申候ハ、時分柄出入ニ取組申義も如何ニ候間、下ニ而何とそ相済申度由申ニ付、其義ニ候ハ、庄屋長百姓中清右衛門申分聞届候而、仁兵衛分之出合田有之義ニ候ハ、仁兵衛ニも相断出合田割分面々取除候而、かり稲相改作人山室村平兵衛ニ相渡、何とそ下ニ而相済被申候様ニと申渡し候

一笹岡村弥五兵衛弟作兵衛と山出入之義ニ付訴状指上候ニ付預り置申候、庄屋長百姓断申候ハ、ケ様ニ訴状ハ取次候得共今一応作兵衛手前も聞届扱申度候、夫迄御上へ指上候事相待申様ニと断ニ候

同六日

一山室村平兵衛、右利兵衛請田刈取申由申来候ニ付、其義ニ付夕へも色々吟味仕候、清右衛門利兵衛田之埒さへ明候へハ刈稲之義も相済可申候間、相待申様ニと申候

一右平兵衛断ニ参候段々笹岡村宗左衛門ニ申聞、何とそ下ニ而相済候様ニと申渡し候

同七日

一殿様大野郡の当郡へ御越被遊候ニ付、御迎人馬後山与の鳴鹿迄参

候、拙者義川上村川端御目見得仕候、藤介様御供ニ而後山村平助方ニ御泊り被遊候

一来未春御廻米年内半分仕立村々郷蔵ニ入置、来春早速津出仕候様ニと之御書付忝通

一当秋造酒屋、高持百姓造酒之義御停止之由、但高をはなち造酒斗商売之者御断申上候様ニと御書付忝通、右忝通之御書付印判仕藤介様へ指上候、留書別紙ニ有

一前谷村清左衛門酒桶寸方立合相改候而帳面ニ為致、清左衛門・庄屋市兵衛印形仕藤助様へ指上申候、下書有

同八日

「」後山組村々不殘御巡見被遊候而「」村も前谷村立毛御検見被遊、同「」刈被仰付自分方へ御入被遊候

一後山組村々庄屋、前谷組之内前谷村・笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王、右六ヶ村庄屋共被召出御直ニ被仰渡候ハ、御蔵入之御取ケ跡々下り候ニ付、向後ハ委細吟味之上取上ケ候様ニとの被仰付ニ「」百姓身持能仕可申候、并費成役懸り有之候ハ、其段無輕可申上候、隱置後日ニ相知候ハ、可為越度之旨被仰渡候

九月九日

一清左衛門酒蔵へ御入被遊酒桶御見分被遊候

一笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・牛山村山ニ而御昼休、

舟津・国影・井江葎・重義・番田・田中々村・十楽村田地御見分被遊歩刈被仰付候、城・西谷・横垣・御見込ニ候、十楽村与右衛門ニ御泊り、藤介様ふし右衛門方ニ御泊り

一前谷組村々、舟寄組之内谷畠・宮前・藤沢此三ヶ村庄屋共被召出、直ニ右之段々被仰聞候

一笹岡村弥五兵衛、下新庄村平左衛門方まで藤介様も飛脚ニ被遣候、郡中大割ニ入可申筈

一人足四人

笹岡村

一馬壹疋

宮谷村

一人足式人

同村

一馬壹疋

青野木村

一人足壹人

同村

一人足式人

同村・十楽村も出

一人足式人

清王村

一人足壹人

西方寺村

一馬壹疋

重義村

一人足式人

同村

一馬壹疋

番田村

一人足式人

同村

右之通前谷村ニ而小遣、十楽村迄御送人馬如此ニ候

同十日

一十楽村御出被遊舟渡候而宮前村萱嶋へ御上り被遊、宮前・藤沢・  
谷畠村の舟寄へ御入被為成候

一人馬壹疋 番田村

一人足式人 田中々村

右之通遣申候

一十楽村御出之節、宮前村願之川掘かへ之所御見分可被下候哉と御  
窺申上候得共、御覽不被遊候

一田中々村才兵衛・国影藤兵衛・宮谷義太夫十楽村御用聞ニ罷出候

一我等義舟寄村迄参御暇被下候ニ付罷帰候

一十楽村の御出之人馬舟寄組の罷出候

同十一日

午御年貢小物成之内初納金割

一金貳百四拾兩三分、外拾兩増割有

此米千三百壹石三斗四升貳合已本途米  
同小物成米

此割

金四兩壹分 前谷村

金貳拾五兩壹分 笹岡村

金貳拾四兩 宮谷村

金貳拾七兩壹分 青野木村

内拾四兩三分 弥次兵衛

七兩壹分 五十郎

五兩壹分 権兵衛

金壹兩壹分 西方寺村

金九兩壹分 清王村

金拾壹兩 赤尾村

金四兩 横垣村

金三拾三兩 井江葭村

金拾七兩 国影村

金九兩 牛山村

金四兩 城村

金壹分 同新家

金三兩三分 西谷村

金貳拾九兩壹分内貳兩 増割 舟津村

金拾五兩内四兩 十楽村

金拾三兩 田中々村

金七兩三分 番田村

金拾貳兩貳分内四兩 重義村

右之初納金当九月廿五日切二三ケ貳、同晦日切二三ケ壹、兩度取

立上納被致候様ニと申触候

九月十二日

一殿様舟寄村の御立被遊今立郡下新庄村へ御越被遊候

同十三日

一 栗毛三歳馬壹疋、髮切西方寺村 市郎右衛門

二 ツ屋口通手形添判いたし候

同十四日

同十五日

同十六日

一一 筆申入候、然ハ其郡為小検見我等共事明十七日比嶋村発足、

舟寄村へ参段々検見ニ相廻候間可被得其意候、迎人馬之義ハ善

右衛門方へ別紙申遣候

一 其郡風損有之帳面之指出義も候ハ、上中下之反別老人別ニ帳

面ニ記させ可被申候、尤稻之色付ニ不及候、以上

九月十六日

安藤源五右衛門

尾花園右衛門

坂井郡  
大庄屋三人

右之御書付後山村〆持参ニ候

同十七日

一 舟寄村へ参候而園右衛門様・源五右衛門様ニ得御意、御廻り村付

書付御目ニ懸申候而、十八日田嶋村御泊り、十九日ハ後山村、廿

日前谷村御泊り、廿一日舟津村御泊り、廿二日十楽村御泊りと相

定申候

同十八日

〔一〕 用遣前谷村人足

〔二〕 元右衛門様・斎藤久野右衛門様・小林郷介様為小検見と今

立郡〆当郡御移りニ付、舟寄村ニ御泊り被遊、明十九日藤沢・宮

前・谷畠村〆我等組下へ御越可被遊由被仰越候ニ付、中番村渡舟

〆重義・番田・田中々村・十楽ニ御泊り被成候様ニ可仕と御返事

仕候

九月十九日

一 右御三人様舟寄村御出、三ヶ村御覽候而暮ニ及候ニ付十楽村ニ御

泊り

同廿日

一 右御三人十楽村・田中々村・番田村・重義・井江葎村・横垣村・

国影村御検見被成候而、舟津村弥次兵衛方ニ御泊、御昼休横垣村

次右衛門方ニ而被成候

同廿一日

一 右御三人舟津村・牛山村・城村・新家・西谷村御検見被成候、御

昼休城村次郎右衛門方ニ而被成候

一 尾花園右衛門様・安藤源五右衛門様御兩人様ハ昨廿日ニ前谷村自

分方ニ御泊り被成候而、今日笹岡村・宮谷村・青野木村・西方寺村・清王村・赤尾村御検見被成候、御昼休

一 村々指上候水損反別帳并風損反別帳、右御両方へ指上申候

一 両方御廻り被成候御検見人馬、跡々之通村々へ無高下割当遣申

二 付、帳面ニ付置申候

一 馬壹疋 田中々村

一 同壹疋 番田村

一 同壹疋 重義村

右八廿日御三人御乗馬

一 人足三人 牛山村

一 同式人 舟津村

右廿日二十楽村舟津村御荷物人足

一 馬三疋内 壹疋舟津村、壹疋牛山村、壹疋国影村

一 人足五人 舟津村、是八舟津村十楽村へ御荷物持人足

右廿一日舟津村御出候而村々御廻り二候

同廿二日

同廿三日

一 右五人御検見様方前谷村ニ御泊り被成候

一 銀拾匁 三与割、境屋甚右衛門可渡筈

一 銀三匁 境屋甚右衛門舟ちん可渡筈

一 銀壹匁五分 右同人方へ三国舟井江葭飛脚ちん

ノ 拾四匁五分

一 銀式匁壹分

唐笠壹本代、さかい屋甚右衛門

ノ

一 人足式人

赤尾村

一 同壹人

横垣村

一 馬壹疋

井江葭村

一 人足壹人

同村

一 馬壹疋

国影村

一 人足壹人

同村

ノ 馬式疋人足五人

右廿一日二御兩人様前谷村舟御出被成村々御廻り被成候、人足

ハ御荷物為持「」村へ遣し申候

(同月七) □□□八日

□□人足式人前谷舟重義へ夜通シ遣

□□月廿日 一人足式人同村舟津村へ夜通シ

□□月廿日 一人足式人同村舟寄村へ夜通シ

一人足式人同村舟三国へ夜通シ

九月廿四日

同廿五日

同廿六日

一 村々舟当作悪敷候ニ付其段御断申上くれ候様ニと庄屋長百姓參候

二付、兩度之御検見被遊候へハ御了簡可有候処、先達而我等方  
申上候事難成由申候へハ、小百姓共達而願申義二候へハ難捨置候  
二付、鯖江迄も罷越御歎も申上度と被申候故、不入事之由申聞候

藤兵衛・田中々村才兵衛・十楽村与三右衛門鯖江へ参候由  
同廿八日

一当十八日二笹岡村清右衛門呼候而、利兵衛刈取申二役之田之義、  
段々申聞此田之義二付利兵衛何角と申候得共、仁兵衛分之田二紛

一当作御訴訟之義二付宮谷村義太夫・青野木村弥次兵衛・赤尾村伊  
右衛門・舟津村弥次兵衛・番田村又左衛門鯖江へ参候由

無之、当年山室村平兵衛請作二仕候事偽り無之様二相聞候間、以  
後我が儘成事不仕様二利兵衛二証文為致此方へ取置可申候間、其

同廿九日

通二而相濟候様二と申聞候へハ、如何□村中も色々扱之事二候へ  
ハ、相濟可申と清右衛門申二付、今日利兵衛・宗左衛門呼寄候而  
段々吟味仕、利兵衛何様二も証文可仕と申二付、重而判形取可申  
と申渡し候

一右之義二付清王村権兵衛・横垣村二郎兵衛・牛山村・重義村鯖江  
へ参候由  
一田中々村板堰願状園右衛門様へ指上候由  
一笹岡村弥五兵衛書付御取込之由二而御返し被成候二付、拙者方二  
預り置申候

一笹岡村弥五兵衛と作兵衛山出入之事、村庄屋長百姓相談を以扱候  
得共作兵衛承引不仕候由二而、作兵衛呼寄候而村中扱之通二而相  
濟候様二と当十八日二色々申聞候へ共、作兵衛承引不仕候二付弥

十月一日

五兵衛二申渡候得ハ、御役人様方御検見を罷歸りを相待候而鯖江  
へ訴状持参可仕由申二付、明廿七日二参候様二と申、園右衛門様

同三日

手紙添候而鯖江へ遣し候

同四日

一田中々村用水江縁板堰二被遊被下候様二と願状指上申度申二付、  
是も園右衛門様迄手紙指添遣し申候

「金」村々御金持参二付請取申候

一金式百六両三分

同廿七日

一金拾六両式分

自分

一当作御訴訟之義二付笹岡村宗左衛門・井江葭村義右衛門・国影村

一金壹両式分

同覚右衛門分共二

ノ式百式拾四兩三分

十月六日

右之金子鯖江へ持参仕候内

金百六拾六兩 上納御通二付

金四兩三分 村々悪金出

残 五拾四兩

一当作米水損米ハ不及申上ニ、其外山方も風損其上実入悪敷候二付、  
毎年之通之上米ニ仕立申義何共難成候由園右衛門様へ申上候へハ、  
当九日ニ江戸御飛脚被遣候間、それ前ニ水損不熟米其外風損不熟  
米之手本米指上候様ニと被仰付候二付、鯖江之人足老入、笹岡村  
弥五兵衛式人を夜通ニ宮領・後山へ遣し申候、右手本米明日之内  
ニ遣し候様ニと申遣し候

同七日

一宮領村の水入不熟米上中下三段持参

一御油田村の水同断

一後山村の水風損米右同断鯖江村の水遣し申候、人足之者持参仕候

同八日

一田中々村・番田村不熟米下手本米一袋

一青野木村同中米老袋

一舟津村同上米老袋

右三ヶ村不熟米手本米指上申候、□米残し置申候、園右衛門様  
へ指上候

右不熟米村々大積り書上候様ニと被仰付候事

不熟米大積り

一取米式分通 重義村

一同九分通 番田村

一同九分通 田中々村

一同三分五厘通 十楽村

一同三分通 舟津村

一同三分通 国影村

一同式分通 井江葭村

一同老分通 横垣村

一同老分通 赤尾村

一同四分五厘通 青野木村

一同式分五厘通 宮谷村

一同式分五厘通 笹岡村

右之通書付園右衛門様へ指上候

一錢式百文 上下四人分老泊

一同百文 同断焼飯代

右八園右衛門様・源五右衛門様午九月廿二日小検見御廻り之節、

宮谷村ニ御泊りニ付右之雑用钱拙者請取候間、雑用帳ニ判形仕右

御兩人様へ指上候

一 錢貳百文

一同百文 右同断

右ハ九月廿三日赤尾村へ御泊り右同断

一 御廻米□□□ハ半分、当極月中旬迄ニ仕立申様ニと最前御書付ニ而被仰付候を、来未正月中迄ニ仕立申度候、相残米者夫ハ段々仕立、御廻船指支させ申間敷由願状指上候、留書有

一 右之願状并不熟米手本米指上候へハ、坂井郡「 」「共ニ御□□

□召寄被仰渡候ハ、坂井郡之義他「 」「も有之候へハ、不塾

米相廻り様ニ「 」「立可被下候、其外之御廻米も半分ハ年□米

拵「 」「仮表ニ而御役人衆御目ニ懸ケ、来正月中ニ本俵ニ仕

御改を請可申候、当春之御廻米之内米拵繩俵悪敷候間、向後入念

を吟吟可仕旨段々被仰渡承知仕候

一 不熟米来春御廻米ニ御廻シ被下候様ニと願状指上候様ニと被仰渡、

則願状指上候、留書有

十月九日

一 平介・庄右衛門・拙者共ニ御前へ被召候而被仰渡候ハ、来春御廻

米極月中ニ米拵仕、仮俵ニ而俵数を見せ、来正月中ニ本俵ニ仕立

候而改を請可申候段書付ニ有之候得共、当国之百姓之ならひニ而、

左様ニ申候而も日を延申候義ニ候へハ、極月中・正月中と申候而

も実正成事も候へハ無之候へハ、正月中迄指延申事不罷成候間、

半分ハ極月十五日切ニ仕立可申候、御廻米被仰付候通壹俵ニ而舟

積ニ支申事成不申候、扱坂井郡ニハ水損有之候へハ不熟米も可有

候得共、米員數無之候へハ取上ケ申事不罷成候と被仰渡、右指上

候兩通之願状御返し被成候ニ付、藤助様へ申上候ハ、御廻米年内

拵之事弥吟味仕重而可申上候、不熟米之義村方ニ而米吟味奉願度

候と申上候

一 布目村彦兵衛方ハ指上候うに式升之代銀四匁、西谷武知右衛門様

ハ請取、拙者手形指上申候

一 鯖江ハ罷出福居ニ泊り申候

同十日

一 福居ハ宿へ罷歸候

同十一日

同十二日

同十三日

一金壹兩 是者最前指上候金子之内悪金ニ而御返し請取申候、重

而此かへの金相渡し可申候 笹岡村宗左衛門(印)

此かへ金同廿三日ニ請取申候

一 最前鯖江へ參御廻米半年内拵之事、并水入村不熟米御納被下候

様ニと兩通御訴訟申上候得共、御聞届無之段々与下村々庄屋中呼

寄候而申聞候へハ、何とそ兩通御訴訟相叶候様ニ、御立寄ニ今一

往御訴訟申上くれ候様ニと被申候而、村々〆願状判形被致被申候

同十四日

一 中番村置土為見分、明十五日石田手代中同道ニ而可罷越候

一 宮前村掘替願之所傍示立之致案内候様ニ宮前村へ可被申渡候、

尤右置土見分次第掘替願之場所見分可申候、十楽村へも立合候

様ニ可被申渡候、以上

十月十四日

青山藤介印

舟寄村善右衛門殿

前谷村二郎左衛門殿

右之御書付舟寄村〆村次ニ而子刻ニ清間村〆持参ニ候

同十五日

一 右之通被仰越候ニ付今朝十楽村へ参候而相待御〇〇候処御越無之

候、布目彦兵衛石田〆帰候而今日藤助様も御出無之由承候、何れ

も御出之事布目へ相知可申候間、御左右次第ニ為知可申由ニ候

同十六日

〇〇津村「<sup>(一舟)</sup>」替有之義ニ付舟津村へ〇〇氏隴月〇〇之内発端一、<sup>(源)</sup>

表白一、系図一、卷之式、雲隠一、桐壺一、箒木一、メ八冊二面

養善寺様へかし申候

一 舟津村庄屋之義、弥次兵衛巳・午両年相勤候処、独身ニ而迷惑之

由度々断ニ付、庄屋立替申様ニと長百姓中へ度々申聞候得共埒明

不申候ニ付、清左衛門・清右衛門・弥次兵衛三人として鬪取為致

候処、来未年清右衛門、申年清左衛門、西ノ年弥次兵衛取当り候

ニ付、其段々定証文取置候、并長百姓之義も相究申候義証文ニ委

細有之候

一 笹岡村弥五兵衛弟作兵衛と山出入之事、先日園右衛門様へ段々申

上候処、十六日ニ弥五兵衛・作兵衛・証人彦三郎・庄屋宗左衛門

・長百姓壱人同道ニ而、鯖江へ遣し候様ニと被仰付候ニ付、書状

指添今日遣し申候

十月十七日

一 国影村用水溜池願有之二付右之場所見分ニ参候

一 井江葎村山〆砂を馳流候而苗代田わさ方埋申二付、御普請所願有

之二付見分ニ参候

同十八日

一 青山藤助様中番村置土之出入場所御見分被成候而、宮前村へ御越

被遊候而川欠之場所御見分被成候ニ付、十楽村之者共川端迄罷出

候而、宮前村地内何分川欠ニ成候、とても当村本田之内ほりやふ

り申事難成由申上候へハ、藤助様被仰候ハ、此義御取上候而於掘

替申二ハ、十楽村其外此水下之村々へも御尋被遊候而御掘せ被遊

義ニ候へハ、御尋之節委細可申上由被仰渡、今日舟寄村迄御帰り

被成候

同十九日

同廿日

一 笹岡村弥五兵衛申来り候ハ、当十六日ニ庄屋宗左衛門・宗右衛門  
 ・彦三郎・作兵衛同道ニ而鯖江へ参候処、園右衛門様御煩ニ而無  
 御出候ニ付、源五右衛門様・元右衛門様へ被召出段々御詮義之上  
 被仰渡候ハ、少之事出入仕罷出候事不届ニ候間下ニ而相済可申候、  
 それとても相済不申候ハ、重而罷出候様ニと被仰渡罷歸候由申ニ  
 付、何とそ下ニ而相済候様ニと宗左衛門方へ手紙ニ而申遣し候

同廿一日

一 舟津村庄屋替り之証文指上候ニ付請取申候

同廿二日

一 新屋惣兵衛最前勤候印判、頃日妹相果候取込之節紛失仕候ニ付、  
 親代々勤候印判ニ而用事可申越之由当十五日ニ惣兵衛断ニ候  
 一 今日村々々罷歸り候  
 一 前谷村清左衛門酒之訴訟ニ、当十九日ニ庄屋市兵衛鯖江へ参候由  
 二候

同廿三日

一 藤介様々十楽村へ直ニ御書付被遣候ハ、宮前村川向水圍堤之内畑  
 方打立町反何程有之候を書付、鯖江へ庄屋持参仕候様ニと被仰越  
 候由申来り候ニ付、反歩相違無之様ニ早々打立、書付持参仕候様  
 ニと申渡し候

同廿四日

「」当午□□金初納不足有之候、跡々相納候「」之通早々  
 可被相納候、遅滞ニ付此旨□□御用之支ニ成候条油断有間敷候、以  
 上

十月廿三日

青山藤介印

坂井郡大庄屋三人

一旦那義来廿八日御発駕被成候筈ニ候  
 一来ル廿六日料理可被下旨被仰付候之条、廿六日八ツ時陣屋へ入  
 来待入候、以上

十月廿三日

青山藤介

坂井郡大庄屋三人

右両通之御廻状舟寄村々村次ニ参候ニ付後山村へ遣し申候  
 一 笹岡村弥五兵衛・作兵衛山出入庄屋長百姓扱ニ而相済候間、鯖江  
 御役所へ御断申上くれ候様ニと申来り候ニ付、右両人扱人之証文  
 判形取置申候

一 笹岡村清右衛門・利兵衛かり取申候田之出入相済不申候ニ付、御  
 役所可申上候哉と申候へハ、下ニ而何とそ相済可申候間、御断之

義八御止候様ニと庄屋宗左衛門申二付、其通二仕候

一前谷村清左衛門倅清右衛門、別家へ罷出酒造申度願二付、丑年造

高五分壹造候様ニ被仰付候由、庄屋市兵衛加判之証文指上候由

十月廿五日

一鯖江へ参候而役人様方へ御料理之御礼申上候

一十楽村川筋畑方反歩打立并ニ奥書ニ右十楽村の願書仕指上候へハ、

川筋畑方宮前川掘替之趣絵図指上候様ニと藤介様被仰付候

一笹岡村弥五兵衛出入扱ニ而相濟候段、園右衛門様へ其外御役人様

方へ申上候

同廿六日

一金四拾七両 午御年貢金藤助様へ指上候、御通ニ付請取申候

一鹿毛式才馬壹疋 髮切

一黒毛式才馬壹疋 同

右之馬板取口通手形奥判仕候

一御代官所中大庄屋共ニ横越村助右衛門御陣屋ニ而御料理被下候

同廿七日

午年御免状之留

一取米拾六石九斗七升八合

壹ツ貳分貳厘

一同百拾九石壹斗六升四合

壹ツ九分三厘

一同百六石五斗三升九合

貳ツ四分三厘

一同百拾七石九斗七升四合

貳ツ五厘

一同四石壹斗九升七合

七分七厘

一同四拾三石八斗九升六合

貳ツ五分五厘

一同四拾七石六斗九升八合

壹ツ六分七厘

一同拾六石三斗八升八合

壹ツ四分

一同百四拾九石九斗五升六合

貳ツ貳分

一同七拾四石六斗壹升九合

貳ツ六厘

一同三拾八石(五斗)升三合

(壹) 壹ツ六分貳厘

(二) 一 九石三斗四合

四 四厘

笹岡村

宮谷村

青野木村

西方寺村

清王村

赤尾村

横垣村

井江葭村

国影村

牛山村

城村

一同九斗式升七合 同新家

壹ツ四分四厘六毛

一同拾壹石壹斗七升三合 西谷村

五分六厘

一同百三拾五石壹斗五升九合 舟津村

式ツ壹分八厘

一同三拾九石壹斗五升壹合 十楽村

五分七厘

一同三拾壹石三斗九升式合 田中々村

六分式厘

一同拾三石四升六合 番田村

式分七厘

一同式拾六石七斗四升壹合 重義村

四分五厘

取米合千式石七斗九升

平均壹ツ式分五厘壹毛壹、内壹分式厘三毛去免ニ上り

午御年貢米之内不熟米之積り

一米式拾式石 笹岡村

一米式拾八石 宮谷村

一米四拾九石 青野木村

一米四石八斗 赤尾村

一米式拾式石 国影村

一米三拾石 井江葭村

一米壹石六斗 横垣村

一米三拾八石 舟津村

一米六石 重義村

一米拾壹石 番田村

一米式拾八石 田中々村

一米拾五石 十楽村

合米式百五拾七石四斗

右村々不熟米員数御尋ニ付大積りニ而書上候留

一金式両 中間へ出ス、但内壹両ハ自分当

壹両ハ平助分扣出、此金請取

右之金子内割金之内ニ而壹両扣可申筈

十月廿八日

一殿様江戸御発駕被遊候二付、組惣代として十楽村与右衛門・同村

伝左衛門罷出候、其外後山与・舟寄組庄屋中式人ツ、罷出候、

大庄屋共不残松森迄御見送り仕御暇乞申上候而罷歸り候

同廿九日

一鯖江ニ而大割仕候二付、割宿之義ニ付門兵衛・伝兵衛・彦五郎・

仙入、右四人何角と申二付、何も相談之上面々宿々喰出二仕、

割宿へハ寄合申日数ニ応し茶代割渡可申之旨申上候へハ、相談次

第二仕候様ニと被仰候処、右四人和談を以跡々之通割宿仕出しニ  
仕くれ候様ニと願二付、其段御断申上伝兵衛方へ寄合申候、立合  
宮谷義太夫罷出候

同晦日

一郡中大割二付各取替候御用人馬代・飛脚賃、今度割二加候ハ、  
一々銀高如何様之御用ニ候由委細断書記、明晦日四ツ時一同二陣  
屋へ持参、吟味之上断相立候ハ、此方役人印形取之割帳二加可被  
申候、其外何方を指出し候共此方役人立合不見届印形無之分ハ勿  
論、「一」可被申候、且又跡々盛落之由二付、帳「一」候由  
有之紛敷相聞不宜、向後如此「一」可相除候

「一」堰過分之入用於有之ハ、入用之「一」帳面ニ記指出得指  
図、手代中印形取□□入用ニ加候様ニと、去冬条目を以被仰付候  
処、入用無之と相見得当夏不申出候、然上者如此之願当方村入用  
帳書載候ハ、急度吟味仕、其村庄屋弁成共被申付可然候、去冬之  
条目者村々入用減少可仕旨被仰付候へハ、村々只今迄之入用減候  
二付、右井堰入用等無之と相見得候、此外条目ニ有之者品々今年  
減候物何々有之哉、今日中書付明日一同二持参可被申聞候、其節  
此手紙可被相返候、以上

十月廿九日

青山 藤 介

小林 郷 助

斎藤久野右衛門

郡中 大庄屋中

尾花園右衛門

右御書付出候得共、拙者組下ニ大割二入候馬人足代無之候、井堰  
入用村割二仕候事無之候、其外村入用減候事村々吟味仕、重而帳  
面出し可申候

十一月朔日

覚

一米四百六拾四表

舟寄組

一米五百拾三表

後山組

一米六百拾拾表

前谷組

右者当午御年貢本途之内四分壹、年内仕立候廻米員数如此二候、  
村々へ割付来月十日限米拵入念繩俵手本俵之通仕立可申候、且  
又中札之義例年之通早々為認指出可被申候、我等村々へ罷出候  
節手支無之様ニ急度可被申付候、将又小物成者年内皆済、定金  
納村々ハ八分通、壹石二付仮直段六拾六匁之積りを以取立金子  
可被相納候、近日直段究り次第可申遣候得共、油断為無之如此  
二候、以上

午 十一月朔日

斎藤久野右衛門

坂井郡大庄屋三人

右之御書付印形仕返し申候

同二日

覚

一金四拾三兩銀拾三匁式分式厘 巳御口米代

一金式拾兩銀式匁七分九厘 巳南都勸化金

右者当夏金子指上手形請取置候処、此度持参不仕候得共皆濟状被

遣請取申候、近日右御手形返上仕此手形と引かへ可申候、以上

午十一月二日

次郎左衛門印

尾花園右衛門殿

右之手形指上皆濟状請取申候、右之御手形指上我等返り手形消申候

一生類御あわれミの事并造酒御法度之御書付一通

一新酒請売御法度之御書付壹通

一諸勸進乞食之御書付壹通

右三通之御書付別紙二有

一中野元右衛門義願二付御暇出候、就夫若金銀米錢不依何事申分

於有之者、早々申出候様ニ村々吟味之上可被申聞候、以上

午十一月

小林郷助

安藤源五右衛門

齋藤久野右衛門

尾花園右衛門

青山藤助

大庄屋中

〔中〕野元右衛門殿御願ニ付御暇被遣候、〔官所村々右

元右衛門殿へ金銀米錢不依何事申分於有之ニハ、此度申上候様ニ

御吟味ニ付、拙者御組下村々相尋候処何之申分出入無御座候ニ付、

村々連判証文取置候処如此ニ御座候、以上

午十一月

大庄屋八人連判

右御書付指上申候、此段村々証文可取候

一鯖江ニ而大割今日相濟申候

一右元右衛門様御暇ハ十月廿七日ニ被下候

一石田吉田小野右衛門殿十月廿七日ニ御暇出申由

十一月三日

一昨二日ニ鯖江ニ罷歸、福居一宿いたし候而今日罷歸り候

同四日

同五日

一中野元右衛門様為御見廻三国へ参候処、金津若藤屋弥次兵衛方

南都勸化銀跡々指上候趣聞合申度由ニ而三国へ書状遣し申候ニ付、

高百石ニ付銀拾五匁ツ、卯・辰・巳三年指上申候、但辰年ハ前年

卯半免、村ハ御免ニ而取立不申候と覚へ申候、帳面無之候ニ付若

相違可有も不存候と返事遣し候

一米百拾七石九斗七升四合 青野木村取米

内

壹ツ八分六厘六毛

六拾四石貳斗壹升八合 弥次兵衛

三拾壹石三斗四升九合 五十郎

貳拾貳石四斗七合 九右衛門

同六日

一金壹両、郡中内割銀之内善右衛門・平介・自分共二壹両宛出し候て、元右衛門様へ此金内割之内二而引取可申筈二候

同七日

一 小林郷助様前谷村清左衛門酒桶符印二御越被遊候

同八日

一 右酒桶御改相濟申候

同九日

一 郷助様我等方二七日・八日貳泊り之分、御泊帳二判形仕候

一 京都愛宕山お例年之通村々へ御札・扇持参候二付請取預り置候、

使僧寿元、宿者金津油屋善右衛門二候

同十日

一 中野元右衛門様へ御暇乞仕候、次二当春仁太夫二貸申候本金壹両御渡請取申候

同十一日

一 杉山織右衛門様能州へ御越被成候二付、金津へ罷出候而御暇乞申上候

同十二日

「」お罷歸り候

十一月十三日

一 安藤源五右衛門様、村々御普請所御見積りとして明十四日比嶋村お後山村へ御越被成、夫お村々御見分可被成由被仰越候、右之御廻状後山村お参候二付、舟寄村へ遣し候二付清間村へ遣し申候

同十四日

一 右源五右衛門様今日後山村迄御越被遊候、明日ハ後山組下御廻り之由二候

同十五日

一 組割無相違仕候

一 巳年皆済状と仮通と引替申候

一 午年御免状相渡、同小物成金日切請合申渡、御廻米年内拵中札紙村々へ相渡申候

一 鯖江諸役割方本帳鯖江の参候

一 御廻米手本俵鯖江の参候

一 高式拾壹石四斗六升九合 国影村新右衛門

内拾八石式斗九升 午御年貢引高

右八国影村当午ノ年水損引と新右衛門御救之引高と御免状二八一

所二有之候得共、水損反歩御改之帳面二八右之通書付指上申候、

其上去巳年舟津村火事人御救之並二引高右之通二候

未春御廻米年内拵割付

一米拾壹表 前谷村

一米七拾四表 笹岡村

一米六拾七表 宮谷村

一米四拾表 弥次兵衛

一米貳拾表 五十郎

一米拾四表 九右衛門

一米三表 西方寺村

一米貳拾七表 清王村

一米三拾表 赤尾村

一米拾表 横垣村

一米九拾三表 井江葭村

一米四拾七表 国影村

一米貳拾四表 牛山村

一米七表 西谷村

一米八拾四表 舟津村

一米貳拾四表 十楽村

一米貳拾表 田中々村

一米八表 番田村

一米拾七表 重義村

ノ六百貳拾表

右之御米極月十日を限仕立、御改を請中札を入申様ニと堅申渡候

一 最前御役所御渡被成候諸勸進乞食之御書付、写候而拙者判形仕

与下村々へ壹通宛相渡申候、本紙手前二有

同十六日

同十七日

一 源五右衛門様来未春奉願候御普請所御見分ニ御出被成候二付、笹

岡村・井江葭村・国影村・十楽村・田中々村・番田村・重義村・

新家、此村々御普請所奉願候ニ付其所「」案内ニ遣し御見

分被成候、是「」へ御越被成候、村々御廻り人足御懸り人

足「」番田・重義の老人ツ、井江葭村「」御昼休

井江葭村

十一月十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一銀百五拾三匁

北村御年貢之内年内割之由

一銀六拾壹匁八分九厘

諸盛銀之由

右北村五右衛門の申越候

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

同廿八日

一北野村善兵衛・同人あせち清左衛門・武兵衛西ノ下刻出火ニ而火  
事参候、火元ハ武兵衛自火ニ而火事参候

同廿九日

一態申遣候、初納以後御年貢金曾而相納不申油断之至ニ候、他郡  
の者段々相納候処、坂井郡無其義氣之毒ニ存候、早々取立少ツ、  
二而も急々相納可被申候、為其申遣し候、以上

午十一月廿七日

齋藤久野右衛門

坂井郡大庄屋中

追而取立大積り帳遣候間、写取便之節無失念相返シ可被申候

右御廻状・御取立目録共ニ舟寄善右衛門の村次ニ而参候ニ付、写  
取後山村へ遣し候、御取立目録写有

一錢百文

安藤源五右衛門様上下旅籠代

一錢四拾八文

御昼休右同断

右八十一月十七日夕の同十八日之朝迄御普請所御見積りニ御出之  
節御泊り之由、旅籠帳ニ判形仕候、鯖江へ指遣し申候

十二月朔日

一昨日致失念中札之義不申遣候、御廻米年内納四分之中札認早々  
可被指越候、其元へ罷出候而ハ相改候而ハ、手廻悪敷候条可得  
其意候、以上

午十一月廿八日

齋藤久野右衛門

坂井郡大庄屋三人

右御廻状後山村の参候、此方留ニ候

同二日

一御高式拾石

国影村次右衛門

此代米式石七斗六升 此利四割

右ハ未十月切、貸主南金津村太郎左衛門証文ニ奥判仕候

一右源五右衛門様の雑用帳、久野右衛門様へ御返事「」自分

下人喜八鯖江へ遣し候処、「」御返事を取三日ニ罷歸り候

十二月三日

同四日

一米三石六斗八升

国影村次右衛門

此質高式拾石

茂左衛門

右ハ未十月切利足四割、貸主南金津村「  
」左衛門証文ニ奥

判仕候

一重義村太郎兵衛・孫四郎村中扱ニ而出入相濟申ニ付、太郎兵衛証

文を取断ニ候へ共、とく縁組仕候ハ、其上ニ而扱証文相極可申候

間、縁組も相濟被申候様ニと申渡し候

一福居へ中札紙買ニ自分も遣ス

同五日

一金貳拾七兩貳分

御年貢金通ニ付

一金拾五兩壹分

同小手形ニ付

一金拾六兩壹分 半切

指引銀之内

一金三兩壹分銀拾三匁八分 国影村へかし金

一銀三匁八厘

五十郎包ちん

一銀三匁

自分銀つりニ出

メ六拾貳兩貳分半切銀五匁貳分七厘

右之通金子相違無之候

同六日

一金六拾四兩壹分銀三匁 御年貢金

一金拾六兩貳分銀六匁壹分七厘

小以金百七兩銀三匁 御年貢金之内

小以金三拾貳兩三分銀拾四匁六厘 わり銀之内

メ百四拾兩銀貳匁六厘之内ニ而左之通引取、残而四拾六兩銀九匁

五分六厘有

覚

一金六拾八兩貳分

御年貢金

一金拾貳兩壹分銀四匁五分五厘 割銀

一金拾兩

大柳太兵衛殿へ

一金三兩

木屋太郎兵衛へ

小以金九拾三兩三分 半切

外

金貳拾兩銀貳匁七分九厘

午七月九日南都勸化、園右衛門様手形

金四拾三兩銀拾三匁貳分貳厘

午七月十八日口米、代金右御同人手形

此貳枚御手形園右衛門様へ指上可申分

右之通預り申候、方々払手形を以相渡可申候、以上

午十二月七日

前谷村

源八郎(印)

同七日

一源八鯖江へ御金持参仕候

同八日

一捨子仕間敷旨、老牛馬養之義御触状壹通、後山村の村次二而參候を請取写取、早々村々へ遣し申候、并久野右衛門様御添状有

同九日

宮谷村  
清右衛門

一黒毛式才馬壹疋髮切  
右二ツ屋口御番所通り手形ニ奥判仕候

一金六拾八両貳分之内三両壹分悪金有之、残六拾五両壹分通帳ニ付請取

一金拾貳両壹分銀四匁五分五厘、大割銀・内割銀鯖江清兵衛・彦五郎ニ相渡し手形請取

一大柳太兵衛殿・木屋太郎兵衛方へ金相渡し「」請取候

「」南都勸化金、御口米手形園右衛門様へ「」我等返り手形消候

「」日罷帰候

一中札判取二鯖江へ自分お遣ス

十二月十日

同十一日

一昨晚久野右衛門様舟寄村迄御越被遊候由、善右衛門方お被申越候  
二付今日権右衛門遣し候処、御廻米御改之段々被仰渡候、近日此方へ御越可被遊由被仰越候、并生類御憐之御書付案文被遣候

同十二日

高八拾貳石  
一家老軒 三間二五間  
笹岡村  
宗兵衛

男女人数拾四人 馬貳疋

右宗兵衛くとお火出候而、十一日夜九ツ時分二焼失仕候由、笹岡村市右衛門・甚左衛門断ニ參候、庄屋・長百姓口上書を取、今早天二鯖江へ御断ニ遣し候、則久野右衛門様舟寄村ニ被成御座候ニ付手紙を以申上候

一博奕御法度御書付、行衛不知者一切宿仕間敷由御書付、後山村お持參候而請取申候、久野右衛門様御添状參候

一鯖江御用書物為持自分お遣ス

同十三日

一村々庄屋長百姓中呼寄候而久野右衛門様御出被遊、御廻米年内仕立御改之段々并年貢金之吟味仕候、次二右被遣候御法度・御書付共々判形取之、御法度之段々入念申渡、并火之用心・盗人用心かたく仕候様ニと申渡、判形取申候

同十四日

一笹岡村宗兵衛火事之義、同村市右衛門を以藤助様迄申上候へハ、度々出火仕候事、殊二長百姓方お火を出候事不届之由御しかり被成候由二而、市右衛門罷帰候段惣左衛門申候

同十五日

一久野右衛門様後山村へ御越被遊候二付権右衛門指越申候

同十六日

一捨子之事、牛馬御憐之御書付写、認候而村々庄屋長百姓判形被致候様ニと、当八日二村々へ遣し候処、九日二番田村又左衛門參候而申候、同村弥右衛門義不届者二候故長百姓為致候事成申間敷由申二付、弥右衛門義も五六年長百姓仕候処、只今俄何角と申義も時分柄不入事二候、金銀取遣り之事ニ而も無之候間先年内ハ跡之通ニ仕置、春中如何様共相談次第ニ可仕候、殊ニ昨日村々へ遣し候御書付ニ、弥右衛門も書載候而遣し候間、弥右衛門ニ判形為致候様ニと又左衛門ニ申候へハ、段々相心得候と申罷帰、右之御書付ニ弥右衛門判形為致不申、其外之御法度ニも弥右衛門ニ判形為仕申間敷と、十三日ニ同村四郎兵衛を以申越候二付、今日番田村又左衛門・門三郎・兵右衛門・久七參候二付申渡候ハ、弥右衛門長百姓之義ハ相談之上重而何様ニも能様ニ可仕候得共、ケ様名書仕置候御書付共、弥右衛門斗無判ニ而何と申指上可申様無之候間、又左衛門御役所持參弥右衛門無判之義申上候様ニと申渡、其外村中我かま、成事共有之二付、久野右衛門様へ可申上由申渡候へハ、村中いづれも誤り色々詫言ニ付、時分□□□今度其通ニいたし、弥右衛門印判持參候様ニとはいふ遣し申候

一後山村參候而久野右衛門様へ御意得候而罷歸り候

同十七日

一番田村弥右衛門參候二付段々申聞、御法度書「」納米預り共ニ判形取申候

「」右衛門様後山村、今日前谷村へ御越「」成候

十二月十八日

一□□庄屋長百姓被召寄、御年貢方御取立之様子、御廻米年内拵、郷藏之段々被仰付候、其外御法度書判形等取申候、御金も請取申候

一酒請売不仕候証文尅通、博奕御法度之証文尅通、博奕之証文御案内、同廻□□共ニ久野右衛門様へ指上申候

覚

一金六拾五兩壹分 御年貢金持參

一金五兩三分 大柳太兵衛殿へ可相渡金

右之金子預り申候、御手形を以可相渡候

十二月十八日

源八郎(印)

右之内五十八兩三分御手形請取  
六兩貳分 悪金請取 相済

一重義村六兵衛江戸〆金壹分銀拾壹匁宿へ遣し候を、国影村次右衛門・文室村庄助ニ言伝遣し候処、右之金子上乗舟津村清右衛門借分ニ罷成、六兵衛宿へ相届不申候二付、六兵衛江戸ニ而右之金子

何方ニ滞候哉、御吟味被遊被下候様ニと江戸ニ而小野条右衛門様へ申上候ニ付、其段久野右衛門様御吟味ニ付、清右衛門滞候事不届ニ候間、右之金子ニ当八月極月迄加利足壹割、清右衛門方の重義村庄屋共ニ為相渡、其手形拙者請取置、則右之手形奥書名印我等相勤、此度久野右衛門様へ指上申候、重義村庄屋手形我等方ニ有

一 田中々村与左衛門碎石松と申者、江戸へかせきニ参度由願状与左衛門指上候ニ付、久野右衛門様へ取次指上候へハ、勝手次第参候様ニと被仰付候

一 当午ノ御取ケ加免江戸の被仰付候ニ付、米高御書付被遣請取申候

同十九日

一 錢貳百文、当十七日の今日迄久野右衛門様御雜用代請取手形指上申候

一 今日の久野右衛門様与下之村々へ米改ニ御出被成候ニ付権右衛門罷出候、前谷村の御出被成候人足ハ笹岡・宮谷・青野木・清王・赤尾、此村々の老入ツ、出し申候、国影村ニ而昼次ニ仕候人足ハ横垣・井江葎・国影・牛山、此村々の老入ツ、出し申候而、十楽村与右衛門方ニ御泊り被成候

同廿日

一 久野右衛門様十楽村の御出被成、田中々村・番田・重義御米改被

成候而舟寄村へ御越被成候、人足八十楽・舟津・田中々村・番田・重義、此村々の老入ツ、出し申候、夫の権右衛門ハ村々蔵封ニ罷出候、自分と庄屋と相對ニ而出し申候

同廿一日

一 源八金六拾五両壹分鯖江へ持参仕候内、五拾八両三分、上納御手形六両貳分悪金ニ而返り請取、大柳太兵衛殿指引相済申候

一 牛山村藤兵衛高預ケ申段々証文相極相済申由、証文持参請取置候  
一 源八十九日ニ鯖江へ参今日罷歸候

一 重義村弥右衛門来未春御廻米船上乘願状、久野右衛門様重義村御廻り之節権右衛門取次、指上候由断ニ参候

一 井江葎村甚右衛門同上乗奉願、則願状指上候処、願状文談悪敷候ニ付御返シ被成候

同廿二日

一 「」村々廻り候て御米郷蔵ニ相納、村々「」ニ而封付罷歸り候

□二月廿三日

一 細呂木村太郎左衛門高九石西方寺村市郎兵衛ニ預ケ置候由、去々年の出入ケ間敷事太郎左衛門申出候得共、市郎兵衛高預り不申由ニ而、出入ニ及候得共何落着も無之、太郎左衛門も出入不申出候

一 右九石之高之内五石七斗余八十右衛門請作分、三石式斗余ハ

市郎兵衛支配仕候処、刁々午迄五年之間十右衛門請作年貢算用、

十右衛門不仕候由市郎兵衛相断候二付、此義ハ市郎右衛門聞訊埒

明候様ニと申遣候へハ、十右衛門・市郎兵衛・市郎右衛門參候二

付様子聞候処、九石之高預り主ハ市郎兵衛ニ紛無之候へハ、右十

右衛門ハ下請之様ニ聞候二付、請田年貢算用十右衛門仕切候而自

然太郎左衛門出入ニ罷出候ハ、市郎兵衛罷出埒明、十右衛門方

へ六ヶ敷義懸申間敷由証文を取、さん用ハ市郎兵衛と仕切候様ニ

と十右衛門ニ申渡候

一 加戸村忠左衛門方ハ舟津村伝右衛門米式表借候而、辰・巳兩年ニ

表表ツ、相済可申証文相渡候、只今迄表表も相済不申候由、布目

彦兵衛書状添忠左衛門遣し候二付、舟津村清右衛門ニ何とぞ忠左

衛門方へ断を申、当年表表、来年表表相済申様ニ成共仕埒明候様

ニ申付候、彦兵衛方ハ右伝右衛門吟味之上委細之返事重而可申入

由申遣候

一 当年たはこ作り候田畑反歩相改帳面ニ記、大庄屋奥判仕来正月

十日以前ニ可指出之由、帳面之御案并御書付鯖江ハ被遣候、尤来

未ノ年ハ当年之半分作候様ニと被仰付候、村々庄屋判形を取指上

候様ニと被仰遣候

一 舟津村甚右衛門来未春御廻米上乘願状指上候

同廿四日

一 右たはこ之御触書村々へ遣し候

同廿五日

一金百拾四両壹分 御年貢金

一金五両 包賃銀其外方々小払金

一札銀貳拾匁 小買物代銀

一金貳分 丸岡庄右衛門可渡

右之通請取鯖江へ持參仕候而、方々払手形を以相渡し可申候、以  
上

源八郎(印)

一 御加免之書付村々へ今日遣し候、就夫村々諸事百姓身持之書付遣  
し候

一 井江葭村甚右衛門上乘願之書付指上候、并舟津村甚右衛門上乘  
願状共ニ式通、源八ニ為持久野右衛門様へ指上候

同廿六日

一 田中々村伝左衛門・義兵衛、北金津馬面源右衛門方ハ借金之事庄  
屋長百姓扱ニ而相済候由、右之借金年符ニ仕相済候由双方ハ断申  
来り候

一 舟津村伝右衛門、加戸村忠左衛門ハかり米之義、表表只今相済、  
残表表ハ来年相済申筈ニ仕詫言仕度由孫右衛門申来り候二付、其  
趣を以先当年御済被下候様ニと布目彦兵衛方へ手紙遣し候

同廿七日

一 田中々村四郎左衛門二馬面源右衛門貸銀之義二付「  
」断二  
 参候、同村甚左衛門二金貳分「  
」之処伝左衛門中取仕候由  
 申来り候付、「  
」相済被申候様ニと申遣候

十二月廿八日

一 牛山村藤兵衛持高預ヶ候ニ付、高預り主共方庄屋長百姓加判之  
 分ハ高代金ニ而相済させ、其上藤兵衛かつへ不申候様ニ可仕、  
 預り主共へ申渡候処、同村四郎左衛門と申者右藤兵衛ニかし方有  
 之由ニ而、何方へも何之断も不申鍋をたくり取候由太兵衛断申ニ  
 付、かけかへもなき鍋ニ候へハ早々取返シ、藤兵衛ニ相渡申様ニ  
 と庄屋長百姓へ申遣し候

一 舟津村清右衛門高・山書入、二面村喜右衛門方金子かり相済不  
 申候由、喜右衛門方断申越候ニ付、舟津村長百姓之方へはいふ  
 遣し候

一 源八今日鯖江を罷歸り候ニ付、指引算用相済御手形共請取申候

同廿九日

一 笹岡村清右衛門下シ置候田を同村利兵衛九月朔日ニ刈取候ニ付、  
 度々吟味之上段々聞届候処、利兵衛我かま、ニ相極候上、右清右  
 衛門ニ庄屋・長百姓色々断を申下ニ而相済候ニ付、利兵衛ニ済証

文判形仕候様ニと申候へハ、何角と申判形不仕候

同晦日

一 笹岡村宗左衛門参候ニ付、清右衛門・利兵衛刈取候稻之義ニ付、  
 利兵衛証文ニ判形仕候様ニと昨日申聞候得共、何角と申利兵衛判  
 形不仕候、此上ハ此方ニ而ハ済不申候間、出入ニ可仕共、其通ニ  
 可仕共清右衛門心任せ仕候様ニと、清右衛門ニ被申渡候様ニと宗  
 左衛門ニ申聞候

一 舟津村清右衛門参候ニ付、二面村喜右衛門方相断候義相済候哉  
 と相尋候へハ、何とそ下ニ而相済申度候ニ付断申候得共、未相済  
 不申候由申候

一 金津源右衛門、田中々村四郎左衛門・伝左衛門貸方之義相済候由  
 断ニ参候

一 牛山村藤兵衛鍋之義、四郎左衛門村中として段々申聞候得ハ、鍋  
 を返し候由太兵衛方断ニ参候